

FUJIFILM

SHOE MOUNT FLASH




EF-X500

使用説明書

本書について

この説明書には、富士フィルム大光量多機能フラッシュ EF-X500 の使い方がまとめられています。ご使用になる前にこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

本書で使われている記号について

-  フラッシュを使用するときに、故障などを防ぐために注意していただきたいことを記載しています。
-  フラッシュを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。
-  参照ページを記載しています。

ご使用にあたっては

- 本製品をカメラに装着した場合は、必ずカメラのボディを保持するようにしてください。フラッシュを持つての持ち運びはカメラがホットシューから脱落することがあります。
- 本製品の LED ビデオライトは、カメラ撮影用の照明です。一般照明など、その他の目的でご使用にならないでください。
- 水中に落としたり、本製品の内部に水または金属などが入ったときは、速やかに電池を外してください。火災、感電の原因になることがあります。
- 使用可能なカメラについては富士フィルムホームページ (<http://fujifilm.jp/sd/>) にてご確認ください。
- カメラの使用説明書もあわせてお読みください。

同梱品一覧

次の同梱品がすべてそろっていることを確認してください。万一、不足なものがございましたら、ご購入店にご連絡ください。

- クリップオンフラッシュ EF-X500 本体
- ディフューザー
- ミニスタンド
- クイックスタートガイド
- ソフトケース



目次

大光量多機能外部フラッシュを初めてお使いになる方は、「はじめに」と1章の説明で、このフラッシュの基本的な操作・撮影方法がわかります。

はじめに 2

1 撮影の準備と簡単な撮影 19

2 フラッシュ各部を操作する 29

3 単灯での応用撮影 35

4 光通信ワイヤレス多灯撮影 53

5 スレーブ発光による多灯撮影 85

6 フラッシュのセットアップ 89

7 フラッシュ設定の保存 / 読み出し / リセット 95

8 資料 99

目次

本書について	2
本書で使われている記号について	2
ご使用にあたっては	2
同梱品一覧	2
EF-X500 ができること	8
フラッシュの配置例	9
各部の名称	10
液晶パネル表示	11
ON 動作モード	11
REMOTE 動作モード	13
MASTER 動作モード	14
フラッシュ機能の設定	17

1 撮影の準備と簡単な撮影 19

電池の入れ方	20
発光回数と発光間隔について	21
カメラへの取り付け方 / 取り外し方	22
取り付け方	22
取り外し方	23
電源の ON/OFF と動作モードについて	24
単灯でご使用の場合 (ON 動作モード)	24
REMOTE でご使用の場合 (REMOTE 動作モード)	24
MASTER でご使用の場合 (MASTER 動作モード)	24
電源をオフにする	25
充電状態について	25
スタンバイ機能について	25
液晶パネル照明について	26
🔒 (ロック) ボタンについて	26
簡単な撮影	27

2 フラッシュ各部を操作する 29

バウンス	30
------------	----

ワイドパネル	31
リフレクターパネル	32
ディフューザー	33

3 単灯での応用撮影 **35**

フラッシュモードを変更する	36
TTL モード	36
マニュアルモード	38
マルチモード	40
カメラでフラッシュの設定を変更する	44
フラッシュ機能設定	44
その他の設定	45
配光特性	45
照射角	46
ビデオライト ON/OFF	47
ビデオライト明るさ	48
AF 補助光 /LED キャッチライト設定	49
単灯設定一覧	51

4 光通信ワイヤレス多灯撮影 **53**

ワイヤレス多灯撮影について	54
配置と作動範囲	55
リモート設定	56
グループ設定	57
調光補正 / 発光強度設定	58
通信チャンネルの設定	59
リモート設定一覧	60
マスター設定	62
マスターフラッシュの発光設定 (グループ設定)	62
通信チャンネルの設定	64
マスター設定一覧	65
カメラでフラッシュの設定を変更する	68
フラッシュ機能設定	68

ワイヤレス多灯撮影	69
TTL を使用した多灯撮影	69
光量比を設定した多灯撮影	73
マニュアル発光による多灯撮影	77
マルチ発光による多灯撮影	80

5 スレーブ発光による多灯撮影 **85**

スレーブモード (P-MODE/N-MODE)	86
発光強度設定	88

6 フラッシュのセットアップ **89**

セットアップメニュー	90
TEST BUTTON	91
TTL TEST POWER	91
SCALE UNITS	91
LCD DENSITY	91
LCD ILLUMINATION	92
BEEP	92
REMOTE READY INDICATOR	92
SENSOR FORMAT	93
CUSTOM SENSOR FORMAT	93
STANDBY	93
REMOTE STANDBY	94
AUTO POWER OFF	94

7 フラッシュ設定の保存 / 読み出し / リセット **95**

フラッシュ設定の保存	96
保存したフラッシュ設定の読み出し	97
フラッシュ設定のリセット	98

8 資料 **99**

トラブルシューティング / FAQ	100
温度上昇時の動作	107
電池消費時の動作	107

主な仕様	108
ガイドナンバー (ISO100・m)	110
索引	111
アフターサービスについて	113

EF-X500 できること

本製品は、TTL 自動調光、FP（ハイスピードシンクロ）発光、光通信方式ワイヤレス多灯撮影に対応した、大光量多機能外部フラッシュです。

- 本製品をカメラのホットシューに取り付けると、単灯フラッシュとしてだけでなく、富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのマスターフラッシュとしてもご使用いただけます。また、富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのリモートフラッシュとしてもご使用いただけます。
- ご使用いただける機能は次のとおりです。

機能		ホットシューのある X シリーズカメラ	
		EF-X500 全機能 対応カメラ	その他のカメラ
単灯 TTL 撮影	閃光発光	✓	✓
	FP 発光	✓	
単灯マニュアル撮影	閃光発光	✓	✓
	FP 発光	✓	
単灯マルチ撮影		✓	✓
光通信方式多灯システムマスター		✓	
LED AF 補助光		✓	
LED キャッチライト		✓	

その他に、次の機能も備えています。

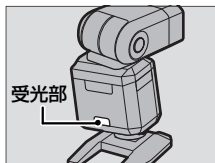
- 光通信方式多灯システムリモート
- フルマニュアル多灯システムスレーブ
- LED ビデオライト



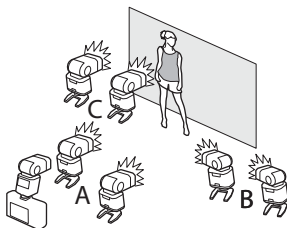
詳細は、富士フィルムホームページ（<http://fujifilm.jp/sd/>）をご覧ください。

フラッシュの配置例

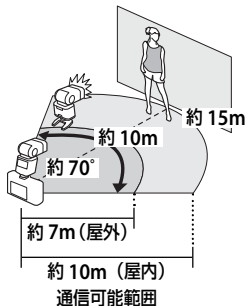
富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムをご利用いただく場合、リモートフラッシュの受光部をマスターフラッシュに向け、バウンス機能を使用して必要な方向に発光させてください。



- 本製品では、Aグループ、Bグループ、Cグループの3グループに分けて発光制御することができます。また1つのグループに複数のフラッシュを設定することも可能です。

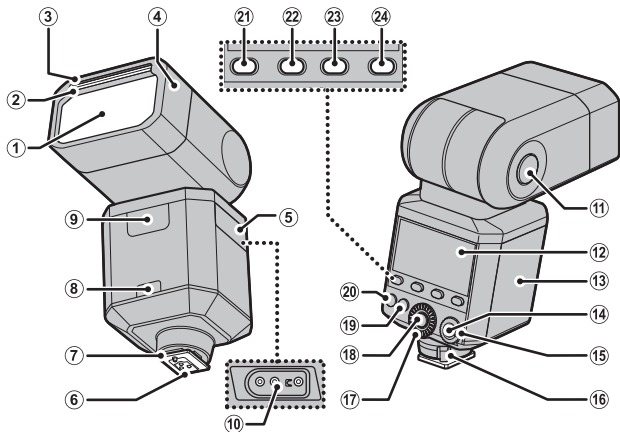


- マスターフラッシュとリモートフラッシュ間の通信可能距離の目安は、図のとおりです。デイライトシンクロなどでの外光、障害物の影響により、通信可能距離が短くなる場合があります。



各部の名称

使い方や説明については、各項目の右側に記載されているページを参照してください。



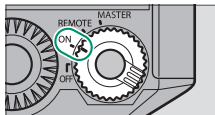
- | | |
|--------------------------------|--|
| ① フレネルレンズ (発光部).....30 | ⑬ シューロックレバー22 |
| ② ワイドパネル.....31 | ⑭ コマンドダイヤル |
| ③ リフレクターパネル32 | ⑮ OK ボタン |
| ④ アクセサリーマウント (キャップ)
.....33 | ⑯ SETUP ボタン/ Ⓛ (ロック) ボタン
.....26、90 |
| ⑤ 外部電源コネクターカバー | ⑰ レディーランプ/テストボタン
.....25、91、92 |
| ⑥ ホットシュー接点.....22 | ⑱ ページボタン
.....17、51、60、65 |
| ⑦ ホットシュー台座.....22 | ⑳ ファンクションボタン 1
.....17、51、60、65 |
| ⑧ 受光部.....9、55、56 | ㉑ ファンクションボタン 2
.....17、51、60、65 |
| ⑨ LED ビデオライト
.....47、48、49 | ㉒ ファンクションボタン 3
.....17、51、60、65 |
| ⑩ 外部電源コネクター | |
| ⑪ パウンスロックボタン30 | |
| ⑫ 液晶パネル.....11 | |
| ⑬ 電池カバー.....20 | |
| ⑭ 電源レバーロックボタン.....24 | |
| ⑮ 電源レバー.....24 | |

液晶パネル表示

撮影時、液晶パネルに次の情報が表示されます。本製品は電源レバーの位置によって動作モードが異なり（[図 24](#)）、表示内容が変わります。

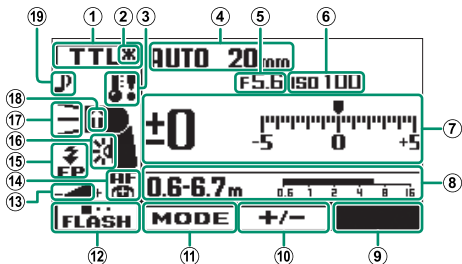
ON 動作モード

単灯でご使用になる場合（ON 動作モード）のパネル表示は次のとおりです。発光モード（[図 36](#)）によって表示が異なります。

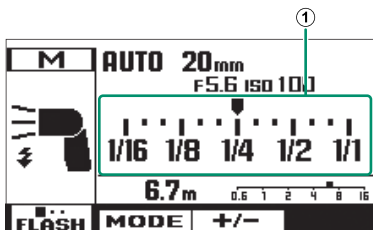


TTL モード

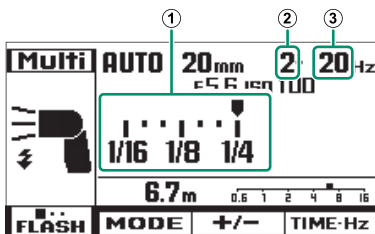
[図 27](#)、[36](#)



- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| ① 発光モード表示 | ⑫ ファンクションページ表示 |
| ② TTL ロック表示 | ⑬ LED ビデオライト発光強度表示 |
| ③ 温度上昇警告表示 | ⑭ LED AF 補助光設定表示 / LED キャッチライト設定表示 |
| ④ 照射角表示 | ⑮ 同調モード表示（先幕 / 後幕 / FP オート） |
| ⑤ カメラ絞り値表示 | ⑯ LED ビデオライト発光状態表示 |
| ⑥ カメラ ISO 感度表示 | ⑰ 配光特性表示 |
| ⑦ 調光補正設定表示 | ⑱ バウンス状態表示 |
| ⑧ 到達距離表示 | ⑲ ビープ音有効表示 |
| ⑨ ファンクションボタン 3 機能表示 | |
| ⑩ ファンクションボタン 2 機能表示 | |
| ⑪ ファンクションボタン 1 機能表示 | |



① 発光強度設定表示



① 発光強度設定表示

③ 発光周波数設定表示

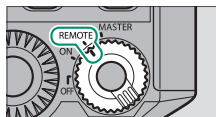
② 発光回数設定表示



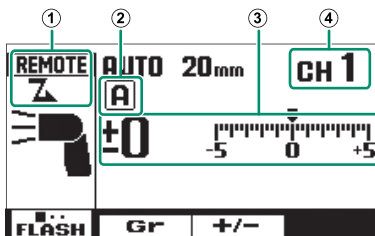
- 説明のため情報はすべて表示しています。状況によって表示が異なります。
- 液晶パネル下部の **MODE** や **+/-** などは、設定状況に応じて表示が変わります。
- ボタンやダイヤルを操作すると、液晶パネルが点灯します。

REMOTE 動作モード

リモートフラッシュとしてご使用になる場合（REMOTE 動作モード）のパネル表示は次のとおりです。グループの設定（[目次](#) 57、86）によって表示が異なります。

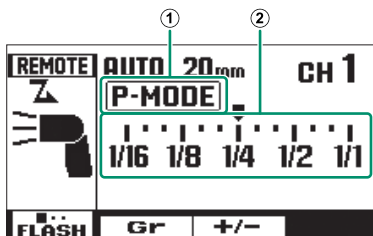


REMOTE モード（グループ A、B、C 設定時）

 57



- ① REMOTE 動作モード表示 ③ 調光補正設定表示（TTL 時） / 発光強度設定表示（マニュアル時、マルチ時）
 ② グループ設定表示 ④ 光通信チャンネル表示

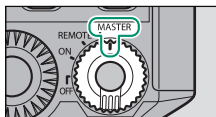
スレーブモード（P-MODE、N-MODE 設定時）

 86


- ① フルマニュアル多灯システム
スレーブ動作モード表示 ② 発光強度設定表示

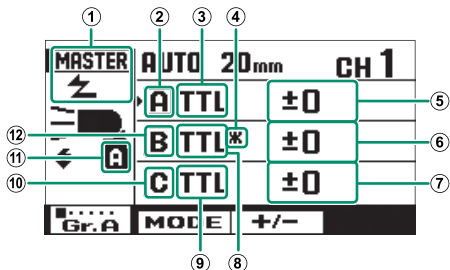
MASTER 動作モード

マスターフラッシュとしてご使用になる場合（MASTER 動作モード）のパネル表示は次のとおりです。発光モード（ 69、73、77、80）によって表示が異なります。



TTLモード

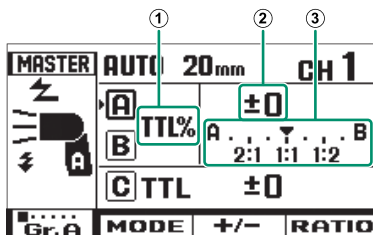
 69



- ① MASTER 動作モード表示
- ② グループ設定表示（A グループ）
- ③ TTL モード表示（A グループ）
- ④ TTL ロック表示
- ⑤ A グループ調光補正
- ⑥ B グループ調光補正
- ⑦ C グループ調光補正
- ⑧ TTL モード表示（B グループ）
- ⑨ TTL モード表示（C グループ）
- ⑩ グループ設定表示（C グループ）
- ⑪ マスター発光設定（マスターのグループ設定）
- ⑫ グループ設定表示（B グループ）

TTLモード（光量比設定）

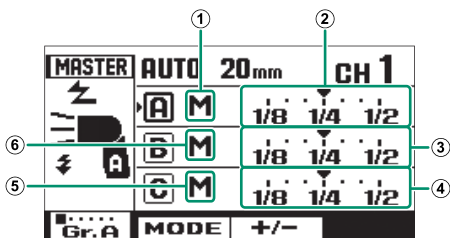
73



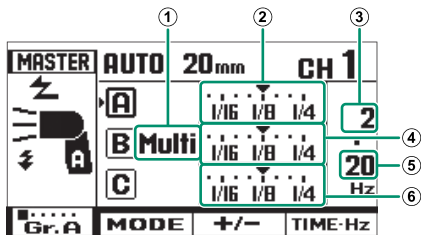
- ① TTL 光量比設定モード表示 ③ A グループ、B グループ光量比表示
 ② A グループ、B グループ調光
 補正表示

マニュアルモード

77



- ① マニュアルモード表示(A グループ) ④ C グループ発光強度設定表示
 ② A グループ発光強度設定表示 ⑤ マニュアルモード表示(C グループ)
 ③ B グループ発光強度設定表示 ⑥ マニュアルモード表示(B グループ)



- ① マルチモード表示
- ② A グループ発光強度設定表示
- ③ 発光回数設定表示
- ④ B グループ発光強度設定表示
- ⑤ 発光周波数設定表示
- ⑥ C グループ発光強度設定表示

カメラが MASTER 機能に対応していない場合

本製品を取り付けたカメラが MASTER 機能に対応していない場合、本製品の液晶パネルに図のように表示されます。

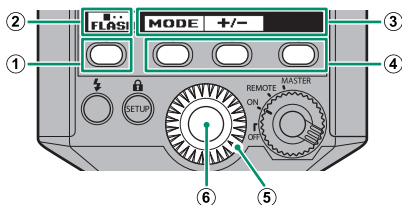


フラッシュ機能の設定


ボタンとダイヤルを操作して、フラッシュ機能の設定を変更できます。

フラッシュの設定を変更するには、変更したい項目が割り当てられているファンクションボタンを押して反転表示させ、コマンドダイヤルを回して設定値を変更します。**OK** ボタンを押すと設定が決定されます。

ページボタンを押すと、ファンクションページ表示とファンクションボタン機能表示が切り替わります。



- | | |
|------------------|-----------------|
| ① ページボタン | ④ ファンクションボタン |
| ② ファンクションページ表示 | ⑤ コマンドダイヤル |
| ③ ファンクションボタン機能表示 | ⑥ OK ボタン |

 ON 動作モード、REMOTE 動作モード、MASTER 動作モードによって、ファンクションページの構成とファンクションボタンの機能が異なります。詳しくは、各モードの設定一覧をご覧ください。

- 単灯設定一覧 (📖 51)
- リモート設定一覧 (📖 60)
- マスター設定一覧 (📖 65)

FP（ハイスピードシンクロ）発光について

フォーカルプレーンシャッターを用いたカメラでは、高速シャッタースピードでの撮影時、先幕と後幕を同時に駆動させ、センサーにスリット状で露光するため、従来の閃光発光方式のフラッシュでは、センサーの一部にしか光が当たらないという問題がありました。このためフラッシュ撮影時は、高速シャッタースピードでの撮影ができず、使用可能なシャッタースピードの領域が大きく制限されていました。本製品は、先幕と後幕を駆動させている間、連続して発光し続ける「FP（ハイスピードシンクロ）発光」に対応しているため、あらゆるシャッタースピードでフラッシュ撮影を快適にご利用いただけます。

撮影の準備と簡単な撮影

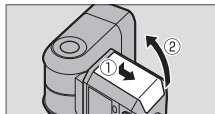
この章では、フラッシュ撮影の準備と基本的な撮影方法について説明します。

電池の入れ方

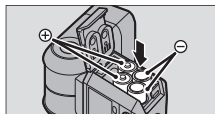
本製品では単3形のアルカリ電池またはニッケル水素電池に対応しています。充電時間を短くしたいときや発光回数を増やしたいときはニッケル水素電池のご使用をおすすめいたします。

- ❗ 同じ種類、同一銘柄の単3電池4本を使います。4本とも新品または満充電の電池をお使いください。
- 本製品は電池カバー内側のラバーが水滴の侵入を防ぐ構造になっています。本体がぬれている場合は、よく拭いてから電池カバーを開けるとともに、ラバー周辺部の水滴を拭き取るようにご注意ください。

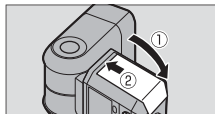
- 1** 電池カバーの上部の辺りを少し押し込んで、そのまま下方向へスライドさせると電池カバーが開きます。



- 2** 新しい単3形電池4本を⊕ ⊖の表示にしたがって電池挿入部に入れます。



- 3** 電池カバーを閉じます。





- 電池を入れる前に、電源レバーが **OFF** の位置に合っていることを確認してください。
- 電池の配列を間違えると故障の原因になりますのでご注意ください。
- 電池カバーを閉じる際は、黒い防塵・防滴ラバーを巻き込まないようにご注意ください。
- 長期間ご使用にならない場合は、電池を取り外して保管してください。
- 連続発光後に電池を交換するときは、電池が熱くなっている場合がありますのでご注意ください。

発光回数と発光間隔について

ご使用いただく電池により発光回数と発光間隔が異なります。以下当社試験基準による数値をご参考に、用途にあった電池をお選びください。

電池種別	発光回数	発光間隔
単3形アルカリ電池×4	約130回	約3.9秒
単3形ニッケル水素電池×4	約170回	約2.5秒



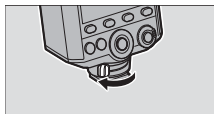
- 発光回数とは、常温下で製造後3ヶ月以内の新しい電池を使用し、30秒間隔で連続発光させ、発光後、テストボタン（レディーランプ）が点灯するのに要する時間が30秒以内である状態の回数です。
- 発光間隔とは、発光回数に示した条件下において発光後、テストボタン（レディーランプ）が点灯するまでの最短時間です。

カメラへの取り付け方 / 取り外し方

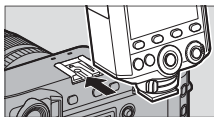
- ❗ フラッシュの取り付け / 取り外しを行う前に、必ず電源をオフにしてください。

取り付け方

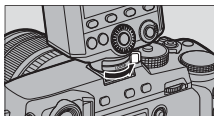
- 1 シューロックレバーを図の方向にスライドさせてロックを解除します。



- 2 ホットシュー台座が、カメラのホットシューの奥に突き当たるまで差し込みます。



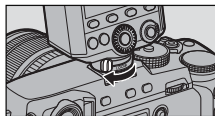
- 3 シューロックレバーを図の方向にスライドさせてフラッシュを固定します。



- ❗
- 取り付け時は、ホットシュー台座やカメラのホットシューがぬれていないことを確認してから取り付けてください。
 - カメラに取り付ける前に、電源をオンにした状態でホットシューの端子同士をショートさせないようにご注意ください。端子同士の接触により、突然発光したり、故障の原因になることがあります。
 - フラッシュをカメラに取り付ける場合は、必ずロックを解除してください。解除しないで無理に差し込むとホットシュー部が破損します。

取り外し方

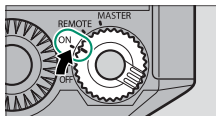
図のように、シューロックレバーのロックを解除して取り外します。解除しないで無理に取り外そうとすると、ホットシュー部分が破損します。



電源の ON/OFF と動作モードについて

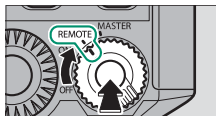
単灯でご使用の場合（ON 動作モード）

- 電源レバーを **ON** の位置まで回します。
- カメラのホットシューに取り付けて本製品 1 台でご使用いただく単灯フラッシュとしての動作モードになります。



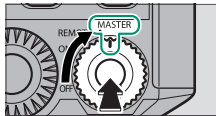
REMOTE でご使用の場合（REMOTE 動作モード）

- 電源レバーロックボタンを押しながら、電源レバーを **REMOTE** の位置まで回します。
- 富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのリモートフラッシュとしてご使用いただく動作モードになります。同梱のミニスタンドを使い、リモートフラッシュの受光部がマスターフラッシュに向くように配置してください。



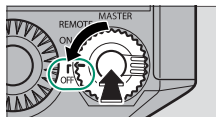
MASTER でご使用の場合（MASTER 動作モード）

- 電源レバーロックボタンを押しながら、電源レバーを **MASTER** の位置まで回します。
- カメラのホットシューに取り付けて富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムを制御するマスターフラッシュとしてご使用いただく動作モードになります。



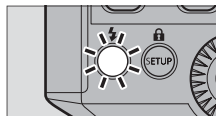
電源をオフにする

- 電源レバーを **OFF** の位置に戻すと、電源がオフになります。レディーランプが消灯して発光しなくなります。
- フラッシュの設定は、電源をオフにしても記憶されています。



充電状態について

- 充電が進むにしたがい、レディーランプが消灯→点滅→点灯の順に変わります。点滅時は最大ガイドナンバーで発光できません。点灯時はフル発光が可能です。
- テストボタン（レディーランプ）を押すとテスト発光（設定によりモデリング発光）を行うことができます。
- カメラのメニュー操作中は、テスト発光ができません。
- 充電が完了すると電子音が鳴ります。鳴らないように設定することもできます（[目録](#) 92）。



スタンバイ機能について

- 電池の消費を抑えるため、何も操作しないまま約2分間が経過すると、スタンバイ状態になります。テストボタン（レディーランプ）を押すと、スタンバイ状態から復帰します。
- スタンバイ状態になるタイミングをカメラと連動させたり、スタンバイ状態にならないように設定することもできます（[目録](#) 93、94）。
- スタンバイ状態ではレディーランプが低速で点滅します。

液晶パネル照明について

- ボタンやダイヤルを操作すると、液晶パネルが約 15 秒間点灯します。ON 動作モード、MASTER 動作モードでは、液晶パネルが緑色に、REMOTE 動作モードではオレンジ色に、温度上昇警告表示 (図 107) では赤色に点灯します。
- 液晶パネルの点灯時間を変更したり、点灯させないように設定することもできます (図 92)。
- 液晶パネルの表示濃度を変更できます (図 91)。

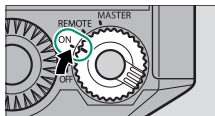
🔒 (ロック) ボタンについて

SETUP ボタン (🔒 (ロック) ボタン) を長押しすると、電源レバーと電源レバーロックボタン以外のボタン操作が無効になります。解除するときは、再度 **SETUP** ボタン (🔒 (ロック) ボタン) を長押ししてください。

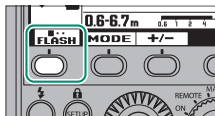
簡単な撮影

カメラの撮影モードをプログラム (P) モードに設定すると、カメラまかせの TTL 撮影ができます。

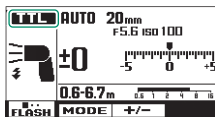
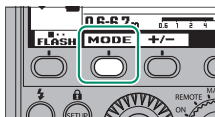
- 1 電源レバーをONの位置まで回します。



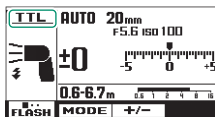
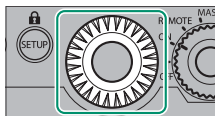
- 2 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。



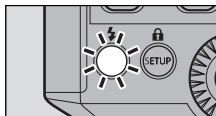
- 3 **MODE** が表示されているファンクションボタンを押します。
発光モードの表示が反転します。



- 4 コマンドダイヤルを回して発光モードを **TTL** (TTLモード) に設定し、OKボタンを押します。



- 5** フラッシュのレディーランプが点灯していることを確認し、カメラのシャッターボタンを押して撮影します。



- レディーランプの点滅中にシャッターボタンを押してもフラッシュが発光しますが、光量不足になります。
- レディーランプが点灯する前にシャッターボタンを押すと、フラッシュが発光せず、通常の撮影になります。
- 撮影した画像を再生して画像を確認したときに、被写体が暗い（露出アンダーの）場合は、被写体に近づくか、ISO 感度を上げてから再度撮影してください。

フラッシュ各部を操作する

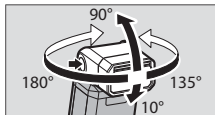
2

この章では、フラッシュ各部の操作方法について説明します。

バウンス

フラッシュ発光部を天井や壁に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影することができます。より均一に、また被写体の背後まで光を回して自然な光を演出することが可能です。

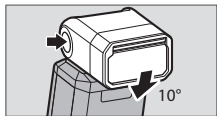
- バウンスロックボタンを押しながら、発光部を回転させます。
- 本製品は上方向 90°、下方向 10°、左方向 135°、右方向 180° まで発光部の向きを設定することが可能です。
- 上下方向の移動は、0°、90° の位置でロックされるようになっています。
- バウンス時は、液晶パネルのフラッシュマークにバウンス状態表示 (↑ または ↓) が表示されます。



- ⚠ ● バウンスさせる壁や天井とフラッシュとの距離が離れすぎないようにご注意ください。反射光が届かず、光量が不足する場合があります。
- バウンス発光を反射させる天井や壁に色が付いていると、その色が撮影画像に影響を与える場合があります。
- 撮影した画像が暗いときは、絞り値をより小さく設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。ISO 感度を上げる方法もあります。

近くの被写体をフラッシュ撮影する

バウンスロックボタンを押しながら発光部を下方向 10° の位置にすると、撮影距離が近い被写体を撮影することができます。



ワイドパネル

ヘッド部に内蔵しているワイドパネルを併用すると、フラッシュの照射角を約 20 mm（35 mm フォーマット換算）まで広げることが可能です。

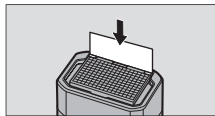
1 ワイドパネルを引き出します。

ワイドパネルの中央にある突起を掴んで引き出し、フレネルレンズの前に倒します。



リフレクターパネル

2 リフレクターパネルは押し戻します。



3 シャッターボタンを全押しすると、フラッシュが発光し、静止画が撮影されます。

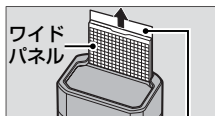
被写体が調光連動範囲に入っていることを確認します。

- ワイドパネル使用時は、照射角の設定はできません。
- ワイドパネルを使用してバウンス撮影を行うと、露出不足になりやすくなりますのでご注意ください。
- ワイドパネルをご使用にならないときは、必ず収納してください。持ち運び等で破損する場合があります。
- ワイドパネルを引き出すときは、力を入れすぎないようにご注意ください。ヘッド部から外れるおそれがあります。

リフレクターパネル

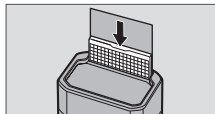
人物撮影において、天井バウンスと併せてリフレクターパネルをご使用いただくと、人物の瞳に光を写し込み、キャッチを入れることができます。人物をより魅力的にみせることができるようになります。

- 1 リフレクターパネルをワイドパネルとともに引き出します。

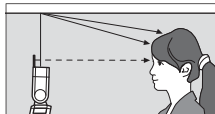


リフレクターパネル

- 2 ワイドパネルは押し戻します。



- 発光部は上向き 90° にして、被写体の正面になるように配置してください。発光部が左右に向いていると、キャッチが正しく入りません。
- フラッシュを人物の近くに配置してフラッシュ撮影すると、効果的にキャッチを入れることができます。



ディフューザー

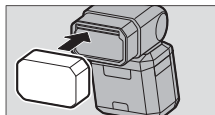
ディフューザーを装着すると、光を拡散させ、やわらかい光を演出することが可能です。

1 アクセサリーマウントキャップを取り外します。

- アクセサリーマウントキャップの取り付けまたは取り外しを行うときは、手で包み込むようにして、力を入れすぎないように注意して行ってください。



2 図のようにディフューザーを装着します。





! ディフューザーを装着するときは、スライド部分に指などをはさまないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

単灯での応用撮影


3

この章では、単灯でのご使用时、フラッシュの機能を活用して応用的に撮影する方法について説明します。

フラッシュモードを変更する

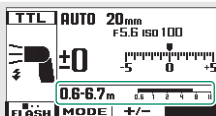
ON 動作モード（単灯で使用するモード）では、TTL モード、マニュアルモード（ 38）、マルチモード（ 40）が使用できます。

TTL モード

カメラの撮影モードをプログラム（P）に設定すると、カメラまかせの簡単な操作でフラッシュ撮影ができます。設定の方法については  27 をご覧ください。



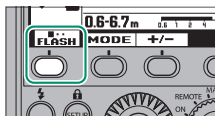
カメラのシャッターボタンを半押しすると、フラッシュの液晶パネルに撮影距離の目安が表示されます。



+/- 調光補正

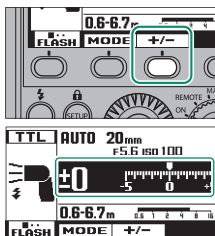
TTL モードでは、被写体が適正露出になるように自動で調光されますが、フラッシュの発光量を手動で補正して、被写体の明るさを変えることもできます。補正量は±5 段まで、 $\frac{1}{3}$ 段ステップで設定できます（撮影条件によっては調整可能範囲を超え、設定値が反映されない場合があります）。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。



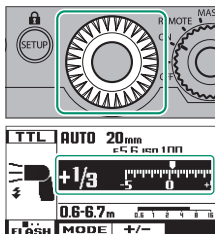
- 2 **+/-**が表示されているファンクションボタンを押します。

調光補正設定の表示が反転します。

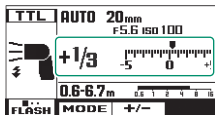


- 3 コマンドダイヤルを回して補正量を選びます。

調光補正を解除するときには、「±0」に設定します。



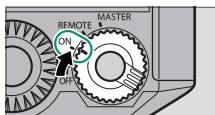
- 4 OKボタンを押して決定します。



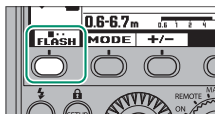
マニュアルモード

フル発光 (1/1) から 1/612 発光まで、1/3 段ステップで発光強度を設定できます (フラッシュの発光強度を少量に設定すると、状況によっては設定値が十分に反映されない場合があります)。

- 1 電源レバーをONの位置まで回します。

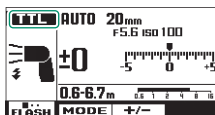
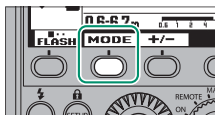


- 2 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

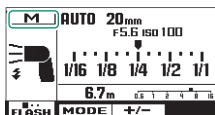
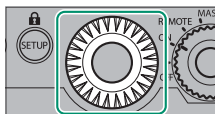


- 3 **MODE** が表示されているファンクションボタンを押します。

発光モードの表示が反転します。

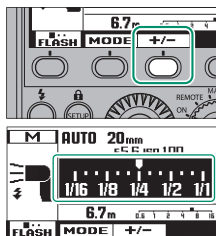


- 4 コマンドダイヤルを回して発光モードを **M** (マニュアルモード) に設定し、OKボタンを押します。

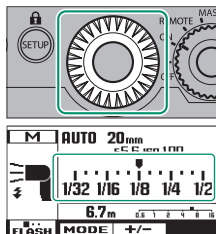



- 5 **+/-**が表示されているファンクションボタンを押します。

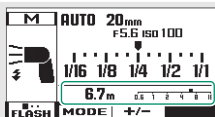
発光強度設定の表示が反転します。



- 6 コマンドダイヤルを回して発光強度を選び、**OK**ボタンを押して決定します。



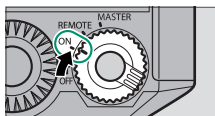
-  カメラのシャッターボタンを半押しすると、フラッシュの液晶パネルに撮影距離の目安が表示されます。



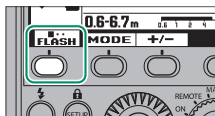
マルチモード

フラッシュを一定の間隔で連続発光させる発光モードです。低速シャッターと併用することで、被写体が連続して動いた軌跡を1枚の写真の中に重ねて撮影できます。マルチモードでは、発光量、発光回数、発光周波数（発光間隔）を設定できます。

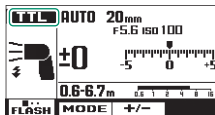
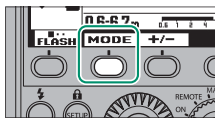
- 1 電源レバーをONの位置まで回します。



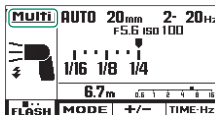
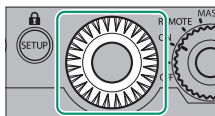
- 2 ページボタンを押して、ファンクションページ表示をFLASHにします。



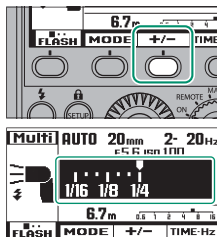
- 3 **MODE** が表示されているファンクションボタンを押します。
発光モードの表示が反転します。



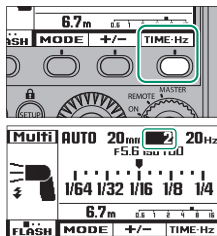
- 4 コマンドダイヤルを回して発光モードを **Multi**（マルチモード）に設定し、OKボタンを押します。



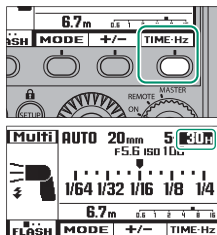
- 5 **+/-** が表示されているファンクションボタンを押し、コマンドダイヤルを回して発光強度を選び、**OK**ボタンを押します。



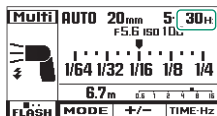
- 6 **TIME-Hz**が表示されているファンクションボタンを押し、コマンドダイヤルを回して発光回数を選びます。



- 7 もう一度**TIME-Hz**が表示されているファンクションボタンを押し、コマンドダイヤルを回して発光周波数を選びます。



- 8 **OK**ボタンを押して決定します。



シャッタースピードについて

マルチモードをご使用になるときは、連続発光の時間とシャッタースピードをほぼ等しくすることをおすすめします。以下の計算式を参考にして設定してください。

$$\text{発光回数} \div \text{発光周波数} = \text{シャッタースピード}$$

例) 発光回数を 20 回、発光周波数を 4Hz に設定した場合は、シャッタースピードを 5 秒程度に設定します。



連続発光すると、過熱により温度上昇警告表示 (107) が出て、しばらく発光できなくなる場合がありますのでご注意ください。



連続発光するときは、三脚やリモートリリース、バッテリーパック EF-BP1 のご使用をおすすめします。

最大連続発光回数


マルチモードの最大連続発光回数は、次の表のとおりです。

		発光強度							
		1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128	1/256	1/512
発 光 周 波 数	1	6	12	30	60	90	100	100	100
	2	4	10	30	60	90	100	100	100
	3	3	8	30	60	90	100	100	100
	4	3	7	25	50	90	100	100	100
	5	3	6	20	50	90	100	100	100
	6-7	3	5	13	40	80	90	100	100
	8-9	3	5	12	30	70	80	100	100
	10	2	5	11	30	60	70	100	100
	11	2	5	11	25	50	70	90	100
	12-14	2	5	10	20	50	60	90	100
	15-19	2	5	9	20	45	60	90	100
	20-50	2	4	9	15	30	50	90	90
	60-200	2	4	8	15	30	45	80	90
	250-500	2	4	8	14	25	40	70	90

カメラでフラッシュの設定を変更する

本製品に対応するカメラ（ 108）を使用すると、カメラのメニュー画面から、フラッシュ機能設定ができます。

フラッシュ機能設定

カメラの撮影メニューから  フラッシュ設定 > フラッシュ機能設定を選び、各項目を設定します。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

画面例（X-T2 の場合）



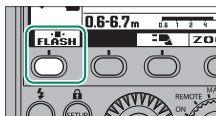
その他の設定


ページボタンやファンクションボタンなどを使用して、フラッシュのいろいろな設定を変更できます。

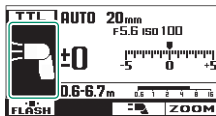
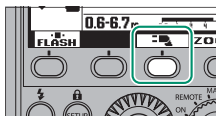
配光特性

撮影画角に対するフラッシュ光の配光(照射角)特性を変更できます。

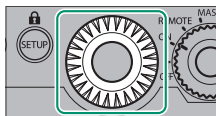
- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。






- 2  が表示されているファンクションボタンを押します。
フラッシュのアイコンが反転します。



- 3 コマンドダイヤルを回して設定を選び、OKボタンを押して決定します。

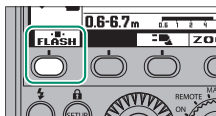


設定	内容
 光量優先	フラッシュの照射角を若干狭めに設定して到達距離を稼ぎます。
 標準	撮影画角に対して最適な照射角にします。
 配光優先	照射角を若干広めにして撮影画面全体の配光の均一性を高めます。

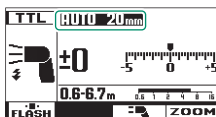
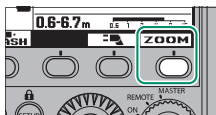
照射角

照射角を設定します。カメラのズーム操作にあわせて自動で照射角が変わるオート設定（**AUTO**）も可能です。

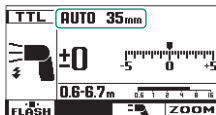
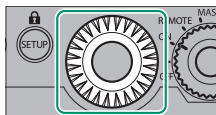
- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。



- 2 **ZOOM**が表示されているファンクションボタンを押します。
照射角の表示が反転します。



- 3 コマンドダイヤルを回して設定を選び、OKボタンを押して決定します。

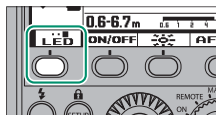


! ワイドパネルのご使用中は無効になります。

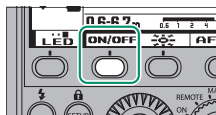
ビデオライト ON/OFF

フラッシュ前面にある LED ビデオライトの ON/OFF を切り替えます。

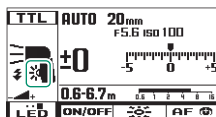
- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **LED** にします。



- 2 **ON/OFF** が表示されているファンクションボタンを押します。



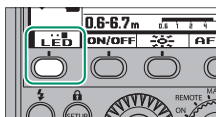
- 3 LED ビデオライト発光状態表示が **※** に変わり、LED ビデオライトが点灯します。もう一度押すと OFF になります。




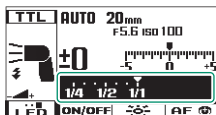
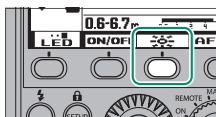
ビデオライト明るさ

フラッシュ前面にある LED ビデオライトの明るさを設定します。

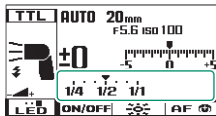
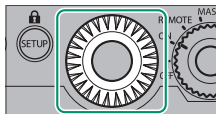
- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **LED** にします。



- 2  が表示されているファンクションボタンを押します。
明るさ設定の設定値が表示されます。



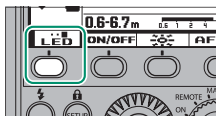
- 3 コマンドダイヤルを回して設定を選び、OKボタンを押して決定します。




AF 補助光 /LED キャッチライト設定

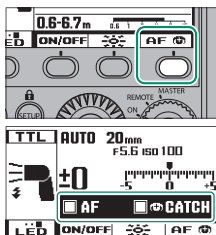
フラッシュ前面にある LED ビデオライトを、静止画撮影時の AF 補助光や、キャッチライトとして使用するかどうかを設定できます。縦位置撮影時やバウンスの角度を 90° 以外にしてご使用になるときは、リフレクターパネルの代わりとして LED キャッチライトを使用できます。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **LED** にします。

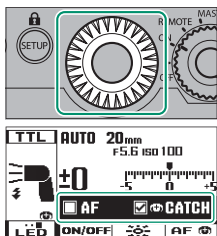


- 2 **AF**  が表示されているファンクションボタンを押します。

AF 補助光 /LED キャッチライト設定のアイコンが表示されます。



- 3 コマンドダイヤルを回すと、表示が次の表のように変わります。設定したい状態のときにOKボタンを押します。

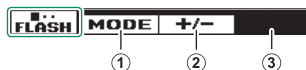


設定	内容
<input type="checkbox"/> AF <input type="checkbox"/> CATCH	AF 補助光、キャッチライトのどちらも使用しません。
<input checked="" type="checkbox"/> AF <input type="checkbox"/> CATCH	AF 補助光のみ使用します。
<input type="checkbox"/> AF <input checked="" type="checkbox"/> CATCH	キャッチライトのみ使用します。
<input checked="" type="checkbox"/> AF <input checked="" type="checkbox"/> CATCH	AF 補助光、キャッチライトのどちらも使用します。

単灯設定一覧

ON 動作モード時、各ファンクションページで設定できる機能は、次のとおりです。

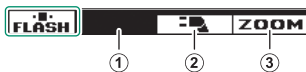
FLASH (1 ページ目)



	ファンクションボタン 機能表示		設定値	📖
①	MODE	発光モード	TTL/M/Multi	27、 36、 38、 40
②	+/-	調光補正 / 発光強度 補正	<ul style="list-style-type: none"> • TTL モード時： 調光補正 -5 ~ +5 (1/3 段ステップ) • M モード時： 発光強度 1/4 ~ 1/612 (1/3 段ステップ) • Multi モード時： 発光強度 1/4 ~ 1/612 (1/3 段ステップ) 	36、 39、 41
③	TIME·Hz*	発光回数 / 発光周波数	<ul style="list-style-type: none"> • 発光回数：2 ~ 100 • 発光周波数：1 ~ 500 	41

*Multi モード時のみ

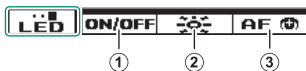
FLASH (2 ページ目)



	ファンクションボタン 機能表示	設定値	
①	なし	—	—
②	配光特性	(光量優先) / (標準) / (配光優先)	45
③	ZOOM 照射角	<ul style="list-style-type: none"> • AUTO : カメラのズーム操作にあわせて自動で照射角が変わります。 • M24mm ~ M105mm* : 手動で設定する値です。 	46

* 35 mm 換算の値です。ご使用のカメラによって異なります。

LED (3 ページ目)



	ファンクションボタン 機能表示	設定値	
①	ON/OFF ビデオライト ON/OFF	オン / オフ	47
②	ビデオライト 明るさ	1/1 ~ 1/128	48
③	AF AF 補助光 / LED キャッチ ライト設定	CATCH / CATCH / CATCH / CATCH	49

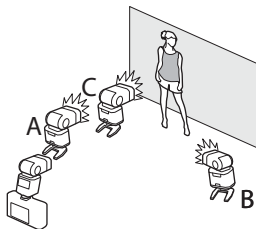
4 光通信ワイヤレス多灯撮影

この章では、富士フィルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムの使用方法について説明します。

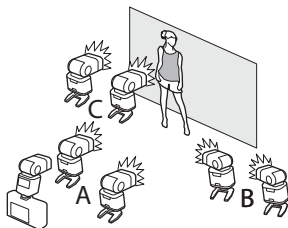
ワイヤレス多灯撮影について

本製品では、光パルス方式を使用した光通信によって、リモートフラッシュを最大3グループ（A、B、C）に分け、発光モードや光量を変えて発光制御することができます。TTLモード（[図 69](#)）、TTL光量比設定モード（[図 73](#)）、マニュアルモード（[図 77](#)）、マルチモード（[図 80](#)）が使用できます。

- マスターフラッシュを含めて、1～3グループに分けて多灯撮影できます（[図 1](#)）。
- 1つのグループに複数のフラッシュを設定できます（[図 2](#)）。
- マスターフラッシュを発光させないように設定することもできます（[図 62](#)）。
- マスターフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルをCH1～CH4から設定することができます。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の混信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分ける際に便利です。



<図 1>



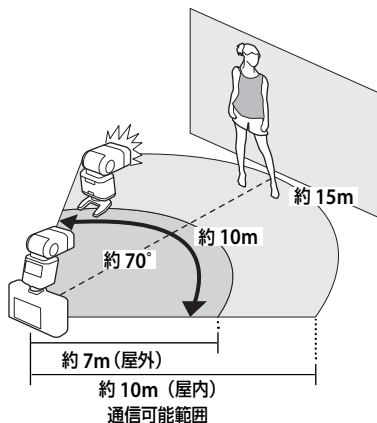
<図 2>

- ❗ 光量が足りない場合は、リモートフラッシュの台数を増やしてください。
- 撮影する前にテスト発光やモデリング発光を行ってください。また、テスト撮影することをおすすめします。
- 光通信の妨げになるため、マスターフラッシュとリモートフラッシュの間に障害物を置かないでください。

配置と作動範囲

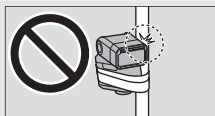
マスターフラッシュとリモートフラッシュを通信可能距離内に配置してください。通信可能距離は屋内と屋外で異なります。

リモートフラッシュ 1 台で TTL 撮影する場合の配置例



- 同梱のミニスタンドなどを使い、リモートフラッシュの受光部がマスターフラッシュに向くように配置してください。
- バウンス機能を利用して、リモートフラッシュの受光部をマスターフラッシュに向けてください。
- 室内の撮影では、リモートフラッシュの受光部がマスターフラッシュに向いていない場合でも、壁面に光通信の光を反射させて作動させることができます。

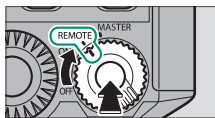
⚠ リモートフラッシュを金属のスタンドなどに固定する場合、発光部の左側が金属に接触しないようにしてください。接触した状態で発光させると大きな音をする場合がありますが、故障ではありません。



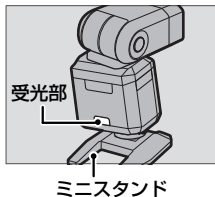
リモート設定


本製品をリモートフラッシュとしてご使用になるときは、次の手順で設定します。また、グループ設定（[目録 57](#)）、調光補正 / 発光強度設定（[目録 58](#)）、通信チャンネルの設定（[目録 59](#)）も行うことができます。

- 1 電源レバーロックボタンを押しながら、電源レバーを**REMOTE**の位置まで回します。



- 2 同梱のミニスタンドを使い、リモートフラッシュの受光部がマスターフラッシュに向くように配置します。

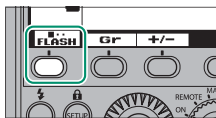


-  リモートフラッシュの発光モードは、マスターフラッシュで設定した発光モードが自動的に反映されます。

グループ設定

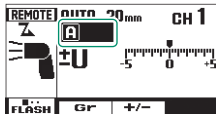
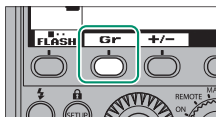
本製品をリモートフラッシュとしてご使用になる場合の発光グループを設定します。Aグループ (A)、Bグループ (B)、Cグループ (C) から選択できます。グループごとの発光モード、調光補正、発光強度などは、マスターフラッシュ側で指定します。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。



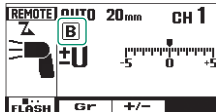
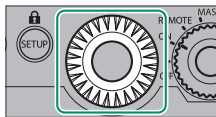
- 2 **Gr**が表示されているファンクションボタンを押します。

グループ設定の表示が反転します。



- 3 コマンドダイヤルを回してグループを選び、**OK**ボタンを押して決定します。

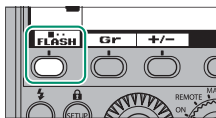
グループ設定の他に、フルマニュアル多灯システムスレーブ動作モード (86) も設定できます。



調光補正 / 発光強度設定

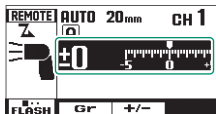
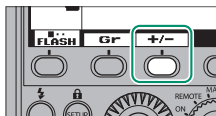
- グループ設定が A、B、または C グループの場合、マスターフラッシュ側で指定したグループごとの調光補正 / 発光強度に加えて、各リモートフラッシュの補正を追加することができます。
- マスターフラッシュ側で指定した発光モード設定にかかわらず、補正值で設定します。リモートフラッシュ側で補正值を追加した場合、マスターフラッシュ側で設定した値が 1 単位になります。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

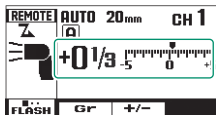
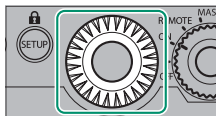


- 2 +/- が表示されているファンクションボタンを押します。

調光補正設定（または発光強度設定）の表示が反転します。



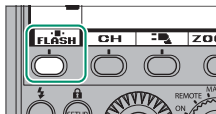
- 3 コマンドダイヤルを回して値を選び、OK ボタンを押して決定します。



通信チャンネルの設定

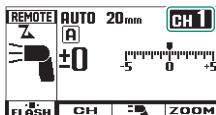
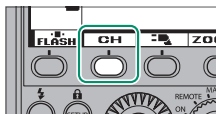
マスターフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルを設定します。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の通信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分ける際に便利です。マスターフラッシュとリモートフラッシュのチャンネルは、同じものを設定してください。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

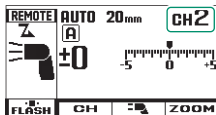
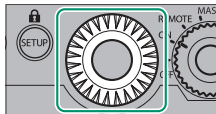


- 2 **CH**が表示されているファンクションボタンを押します。

光通信チャンネルの表示が反転します。



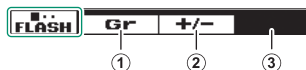
- 3 コマンドダイヤルを回してチャンネルを選び、OKボタンを押して決定します。



リモート設定一覧

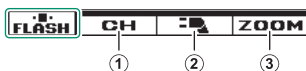
REMOTE 動作モード時、ファンクションページごとに設定できる機能は、次のとおりです。

FLASH (1 ページ目)



	ファンクションボタン 機能表示		設定値	📖
①	Gr	グループ	<ul style="list-style-type: none"> • A (A グループ) / B (B グループ) / C (C グループ) / P-MODE (プ リ発光キャンセルスレーブ発光モー ド) / N-MODE (ノーマルスレーブ 発光モード) 	57
②	+/-	調光補正 / 発光強度 補正	-5 ~ +5 (1/3 段ステップ)	58
③		なし	—	—

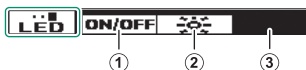
FLASH (2 ページ目)



	ファンクションボタン 機能表示		設定値	📖
①	CH	光通信 チャンネル	CH1 ~ CH4	59
②		配光特性	(光量優先) / (標準) / (配光優先)	45
③	ZOOM	照射角	<ul style="list-style-type: none"> • AUTO : カメラのズーム操作にあわせて自動で照射角が変わります。 • M24mm ~ M105mm* : 手動で設定する値です。 	46

*35 mm 換算の値です。ご使用のカメラによって異なります。

LED (3 ページ目)

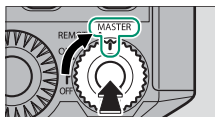


	ファンクションボタン 機能表示		設定値	📖
①	ON/OFF	ビデオライト ON/OFF	オン / オフ	47
②		ビデオライト 明るさ	1/1 ~ 1/128	48
③	なし		—	—

マスター設定

本製品をマスターフラッシュとしてご使用になるときは、次の手順で設定します。また、発光設定、通信チャンネルの設定（[目次 64](#)）を行うことができます。

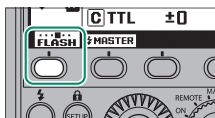
本製品をマスターフラッシュとしてご使用になるときは、電源レバーロックボタンを押しながら、電源レバーを **MASTER** の位置まで回します。



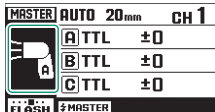
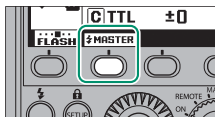
マスターフラッシュの発光設定（グループ設定）

マスターフラッシュを発光させるかどうかを設定します。発光させる場合、A、B、Cのどのグループとして発光させるか選べます。





- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

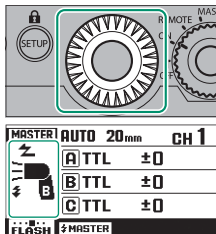




- 2 **MASTER** が表示されているファンクションボタンを押します。
フラッシュのアイコンが反転します。



3 コマンドダイヤルを回して設定を選び、OKボタンを押して決定します。

-  : A グループ
-  : B グループ
-  : C グループ
-  : OFF

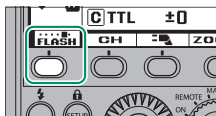


-  • マスターフラッシュを OFF にした場合も、リモートフラッシュを制御するための発光（光通信）が行われます。撮影条件によっては画像に写り込む場合があります。
- 配光特性（ 45）を設定した場合、マスターフラッシュを OFF にしても配光特性表示が点線ではなく実線で表示されます。

通信チャンネルの設定

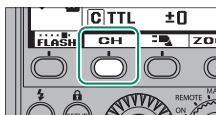
マスターフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルを設定します。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の通信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分ける際に便利です。マスターフラッシュとリモートフラッシュのチャンネルは、同じものを設定してください。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

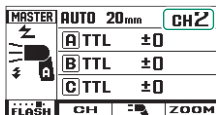
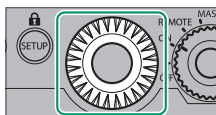


- 2 **CH**が表示されているファンクションボタンを押します。

光通信チャンネルの表示が反転します。



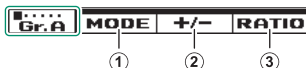
- 3 コマンドダイヤルを回してチャンネルを選び、OKボタンを押して決定します。



マスター設定一覧

MASTER 動作モード時、ファンクションページごとに設定できる機能は、次のとおりです。

Gr.A / Gr.B / Gr.C (1～3 ページ目)



	ファンクション ボタン機能表示		設定値	📖
①	MODE	発光モード	TTL/TTL%/M/Multi/OFF	69、 73、 77、 80
②	+/-	調光補正 / 発光強度 補正	<ul style="list-style-type: none"> • TTL、TTL%モード時： 調光補正 -5 ～ +5 (1/3 段ステップ) • M モード時： 発光強度 1/4 ～ 1/612 (1/3 段ステップ) • Multi モード時： 発光強度 1/4 ～ 1/612 (1/3 段ステップ) / OFF 	70、 75
				78
				81
③	RATIO ^{*1}	光量比	8 : 1 ～ 1 : 8	74
	TIME-Hz ^{*2}	発光回数 / 発光周波数	<ul style="list-style-type: none"> • 発光回数：2 ～ 100 • 発光周波数：1 ～ 500 	82

*1 TTL%モード時のみ

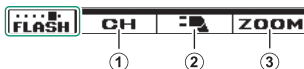
*2 Multi モード時のみ

FLASH (4 ページ目)



	ファンクションボタン機能表示	設定値	📖
①	MASTER (MASTER 発光設定)	(A グループ) / (B グループ) / (C グループ) / (非発光)	62
②	なし	—	—
③	なし	—	—

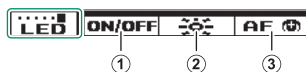
FLASH (5 ページ目)



	ファンクションボタン機能表示	設定値	📖
①	CH 光通信 チャンネル	CH1 ~ CH4	64
②	 配光特性	(光量優先) / (標準) / (配光優先)	45
③	ZOOM 照射角	<ul style="list-style-type: none"> • AUTO : カメラのズーム操作にあわせて自動で照射角が変わります。 • M24mm ~ M105mm* : 手動で設定する値です。 	46

* 35 mm 換算の値です。ご使用のカメラによって異なります。

LED (6 ページ目)



	ファンクションボタン機能表示	設定値		
①	ON/OFF	ビデオライト ON/OFF	オン / オフ	47
②		ビデオライト 明るさ	1/1 ~ 1/128	48
③	AF	AF 補助光 / LED キャッチ ライト設定	<input type="checkbox"/> AF <input type="checkbox"/> CATCH / <input checked="" type="checkbox"/> AF <input type="checkbox"/> CATCH / <input checked="" type="checkbox"/> AF <input checked="" type="checkbox"/> CATCH / <input checked="" type="checkbox"/> AF <input checked="" type="checkbox"/> CATCH	49

カメラでフラッシュの設定を変更する

本製品に対応するカメラ（[図 108](#)）を使用すると、カメラのメニュー画面から、フラッシュ機能設定ができます。フラッシュが REMOTE 動作モードの場合は設定できません。

フラッシュ機能設定

カメラの撮影メニューから **⚡ フラッシュ設定 > フラッシュ機能設定** を選び、各項目を設定します。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

画面例（X-T2 の場合）



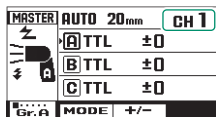
ワイヤレス多灯撮影

マスターフラッシュ (62) とリモートフラッシュ (56) の基本設定を行った後、マスターフラッシュを操作して、撮影内容に応じた発光モードなどの各設定を行います。

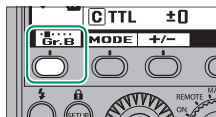
TTL を使用した多灯撮影

TTL を使用した多灯撮影では、光量の合計が適正露出になるように自動で制御されます。

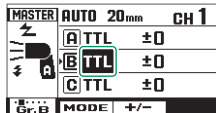
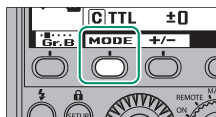
- 1 通信チャンネル (59、64) がリモートフラッシュと同じチャンネルになっていることを確認し、カメラ (マスターフラッシュ) とリモートフラッシュを配置します (55) 。



- 2 ページボタンを押して、TTL発光させたリモートフラッシュのグループを選びます。

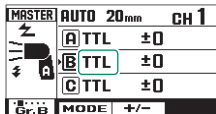
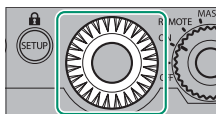


- 3 **MODE**が表示されているファンクションボタンを押します。
発光モードの表示が反転します。

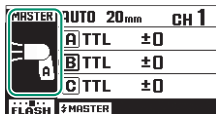


4 コマンドダイヤルを回して **TTL** を選び、OKボタンを押します。

- リモートフラッシュは、撮影時に自動で TTL モードに設定されます。

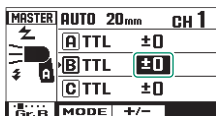
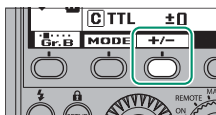


- マスターフラッシュも発光させる場合は、マスターフラッシュの発光設定 (📖 62) でグループを設定してください。

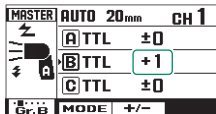
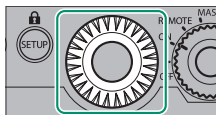


5 +/- が表示されているファンクションボタンを押します。

調光補正設定の表示が反転します。

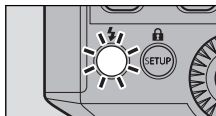


6 コマンドダイヤルを回して補正量を選び、OKボタンを押して決定します。



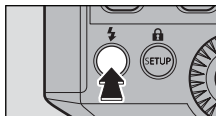
- 7** マスターフラッシュとリモートフラッシュそれぞれのレディーランプが点灯していることを確認します。

リモートフラッシュは、レディーランプと同時に LED ビデオライトも点灯させるように設定できます (92)。



- 8** テストボタン (レディーランプ) を押して、リモートフラッシュのテスト発光を行います。

リモートフラッシュが発光しない場合は、通信可能範囲 (55) 内に配置されているか確認してください。

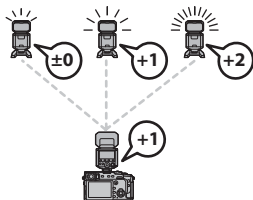



- 9** カメラのシャッターボタンを押して、フラッシュ撮影します。


より大きな光量が必要なときは、リモートフラッシュの台数を増やしてください。

リモートによる調光補正 / 発光強度補正

リモートフラッシュのグループ設定が A、B、または C グループの場合 (57)、マスターフラッシュ側で指定したグループごとの調光補正 / 発光強度に加えて、各リモートフラッシュの補正を追加することができます (58)。



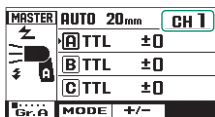
 外光の影響により、リモートフラッシュが誤作動する場合があります。できるだけ外光の影響がないように配置してください。

-  光の当たり具合は、モデリング発光を行うことで確認できます。テストボタンでモデリング発光させる設定については、91 ページをご覧ください。また、カメラからモデリング発光を指示することが可能です。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。
- フラッシュを操作しないまま一定時間が経過すると、スタンバイ状態になります。スタンバイ状態になったときは、テストボタンを押すと復帰します。マスターフラッシュのテストボタンを押すと、リモートフラッシュも自動で復帰します。フラッシュがスタンバイ状態になるまでの時間は変更することができます (📖 93、94)。
 - フラッシュがスタンバイ状態になってからさらに一定時間が経過すると、自動で電源がオフになります (オートパワーオフ)。オートパワーオフ状態になった場合は、いったん電源レバーを **OFF** の位置に動かしてから、再度元の位置に合わせると復帰します。オートパワーオフ状態になるまでの時間は変更することができます (📖 94)。

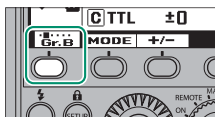
光量比を設定した多灯撮影

AグループとBグループにリモートフラッシュを分けて、2つのグループの光量比を自動で調整して撮影します。TTL設定は、AグループとBグループの光量の合計が適正露出になるように自動で制御されます。

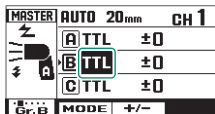
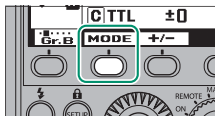
- 1 通信チャンネル (59、64) がリモートフラッシュと同じチャンネルになっていることを確認し、カメラ (マスターフラッシュ) とリモートフラッシュを配置します (55) 。



- 2 ページボタンを押して、リモートフラッシュのAグループまたはBグループを選びます。

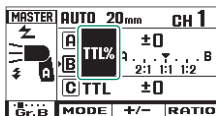
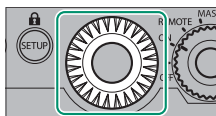


- 3 **MODE**が表示されているファンクションボタンを押します。
発光モードの表示が反転します。

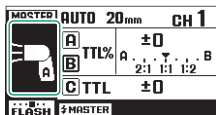


4 コマンドダイヤルを回して **TTL%** を選び、OKボタンを押します。

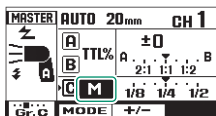
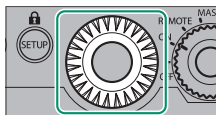
- Aグループ、Bグループのどちらか一方を設定すると、もう一方も自動で設定されます。



- マスターフラッシュも発光させる場合は、マスターフラッシュの発光設定 (図 62) でグループを設定してください。

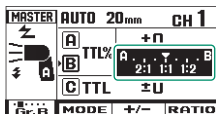
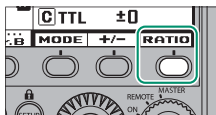


- Cグループも発光させる場合は、手順2～4と同様の手順で、Cグループを選んで発光モードを **TTL** または **M** に設定し、OKボタンを押します。

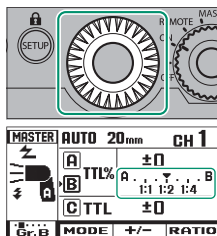


5 **RATIO** が表示されているファンクションボタンを押します。

- Cグループを設定した場合は、ページボタンを押してファンクションページ表示を **Gr.A** または **Gr.B** にしてください。
- 光量比の表示が反転します。

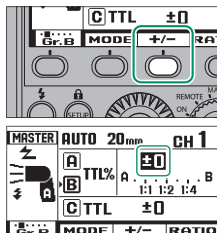


- 6 コマンドダイヤルを回して光量比を選び、OKボタンを押します。

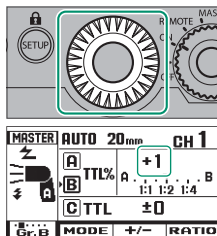


- 7 +/-が表示されているファンクションボタンを押します。

調光補正設定の表示が反転します。

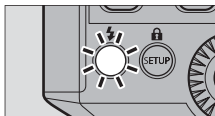


- 8 コマンドダイヤルを回して補正量を選び、OKボタンを押して決定します。



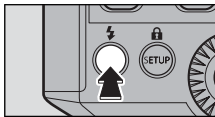
- 9** マスターフラッシュとリモートフラッシュそれぞれのレディーランプが点灯していることを確認します。

リモートフラッシュは、レディーランプと同時に LED ビデオライトも点灯させるように設定できます (図 92)。



- 10** テストボタン (レディーランプ) を押して、リモートフラッシュのテスト発光を行います。

リモートフラッシュが発光しない場合は、通信可能範囲 (図 55) 内に配置されているか確認してください。

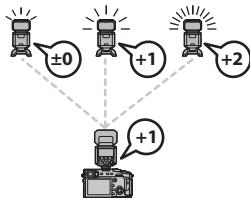


- 11** カメラのシャッターボタンを押して、フラッシュ撮影します。

- 設定した光量比で、リモートフラッシュが発光します。
- より大きな光量が必要なときは、リモートフラッシュの台数を増やしてください。



リモートによる調光補正 / 発光強度補正

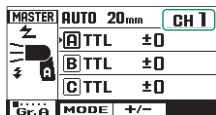
リモートフラッシュのグループ設定が A、B、または C グループの場合 (図 57)、マスターフラッシュ側で指定したグループごとの調光補正 / 発光強度に加えて、各リモートフラッシュの補正を追加することができます (図 58)。



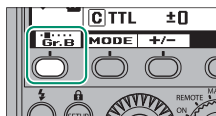
マニュアル発光による多灯撮影

グループごとに、リモートフラッシュの発光強度を設定して発光させることができます。

- 1 通信チャンネル（ 59、64）がリモートフラッシュと同じチャンネルになっていることを確認し、カメラ（マスターフラッシュ）とリモートフラッシュを配置します（ 55）。

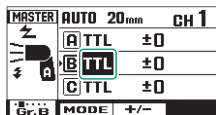
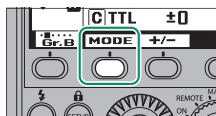


- 2 ページボタンを押して、マニュアル発光させたいリモートフラッシュのグループを選びます。



- 3 **MODE**が表示されているファンクションボタンを押します。

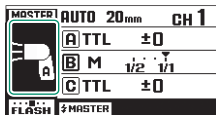
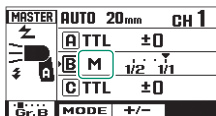
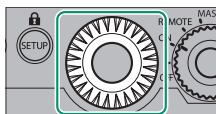
発光モードの表示が反転します。



4 コマンドダイヤルを回して **M** を選び、OKボタンを押します。

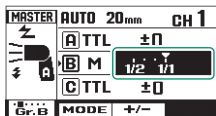
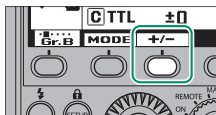
- リモートフラッシュは、撮影時に自動でマニュアルモードに設定されます。

- マスターフラッシュも発光させる場合は、マスターフラッシュの発光設定 (62) でグループを設定してください。

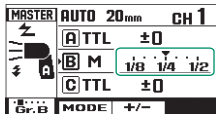
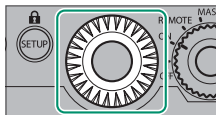


5 +/- が表示されているファンクションボタンを押します。

発光強度設定の表示が反転します。

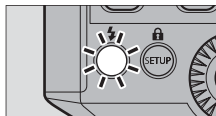


6 コマンドダイヤルを回して発光強度を選び、OKボタンを押して決定します。



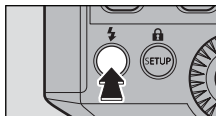
- 7** マスターフラッシュとリモートフラッシュそれぞれのレディーランプが点灯していることを確認します。

リモートフラッシュは、レディーランプと同時に LED ビデオライトも点灯させるように設定できます (92)。



- 8** テストボタン (レディーランプ) を押して、リモートフラッシュのテスト発光を行います。

リモートフラッシュが発光しない場合は、通信可能範囲 (55) 内に配置されているか確認してください。

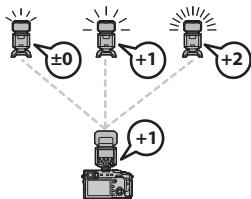


- 9** カメラのシャッターボタンを押して、フラッシュ撮影します。

より大きな光量が必要なときは、リモートフラッシュの台数を増やしてください。

リモートによる調光補正 / 発光強度補正

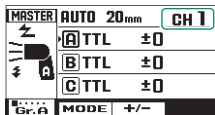
リモートフラッシュのグループ設定が A、B、または C グループの場合 (57)、マスターフラッシュ側で指定したグループごとの調光補正 / 発光強度に加えて、各リモートフラッシュの補正を追加することができます (58)。



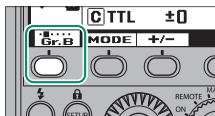
マルチ発光による多灯撮影

マルチモード (40) で多灯撮影できます。

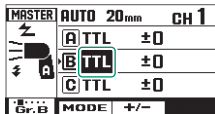
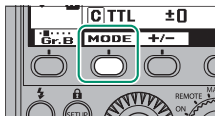
- 1 通信チャンネル (59、64) がリモートフラッシュと同じチャンネルになっていることを確認し、カメラ (マスターフラッシュ) とリモートフラッシュを配置します (55) 。



- 2 ページボタンを押して、リモートフラッシュのAグループ、Bグループ、Cグループのいずれかを選びます。



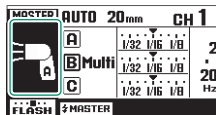
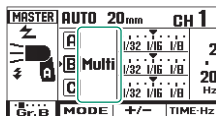
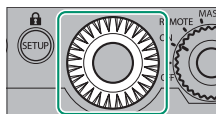
- 3 **MODE**が表示されているファンクションボタンを押します。
発光モードの表示が反転します。



4 コマンドダイヤルを回して **Multi** を選び、OKボタンを押します。

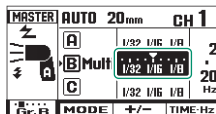
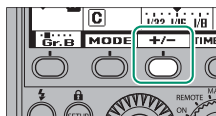
- グループのいずれかを設定すると、すべてのグループがマルチモードに設定されます。

- マスターフラッシュも発光させる場合は、マスターフラッシュの発光設定 (62) でグループを設定してください。

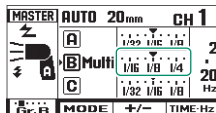
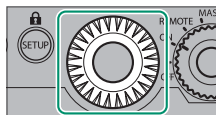


5 +/- が表示されているファンクションボタンを押します。

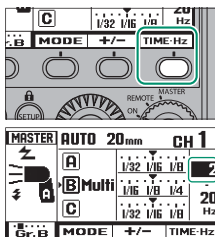
発光強度設定の表示が反転します。



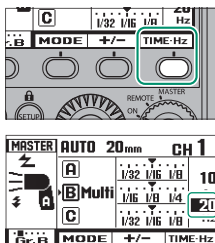
6 コマンドダイヤルを回して発光強度を選び、OKボタンを押します。



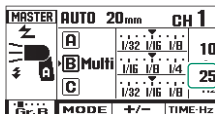
- 7 **TIME-Hz**が表示されているファンクションボタンを押し、コマンドダイヤルを回して発光回数を選びます。



- 8 もう一度**TIME-Hz**が表示されているファンクションボタンを押し、コマンドダイヤルを回して発光周波数を選びます。

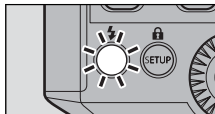


- 9 **OK**ボタンを押して決定します。



- 10 マスターフラッシュとリモートフラッシュそれぞれのレディーランプが点灯していることを確認します。

リモートフラッシュは、レディーランプと同時にLEDビデオライトも点灯させるように設定できます (92)。



- 11** テストボタン（レディーランプ）を押して、リモートフラッシュのテスト発光を行います。



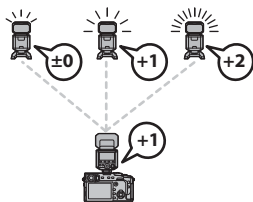
リモートフラッシュが発光しない場合は、通信可能範囲（[図 55](#)）内に配置されているか確認してください。

- 12** カメラのシャッターボタンを押して、フラッシュ撮影します。

より大きな光量が必要なときは、リモートフラッシュの台数を増やしてください。

リモートによる調光補正 / 発光強度補正

リモートフラッシュのグループ設定が A、B、または C グループの場合（[図 57](#)）、マスターフラッシュ側で指定したグループごとの調光補正 / 発光強度に加えて、各リモートフラッシュの補正を追加することができます（[図 58](#)）。



スレーブ発光による多灯撮影

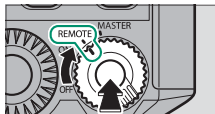
5

この章では、スレーブ発光による多灯撮影について説明します。

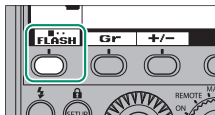
スレーブモード (P-MODE/N-MODE)

カメラに取り付けたフラッシュが光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムに対応していない場合、本製品をフルマニュアル多灯システムスレーブ動作モード (**P-MODE** または **N-MODE**) に設定すると、カメラに取り付けたフラッシュに同調してスレーブ発光できます。

- 1 電源レバーロックボタンを押しながら、電源レバーを**REMOTE**の位置まで回します。

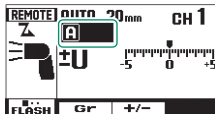
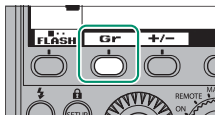


- 2 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

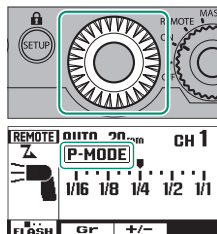


- 3 **Gr** が表示されているファンクションボタンを押します。

グループ設定の表示が反転します。



- 4 コマンドダイヤルを回してモードを選び、OKボタンを押して決定します。

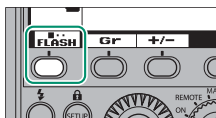


設定	内容
P-MODE	プリ発光キャンセルスレープ発光：フラッシュがプリ発光対応の場合に適した設定です。フラッシュのプリ発光には同調せず、本発光にのみ同調して発光します。
N-MODE	ノーマルスレープ発光：フラッシュがプリ発光非対応の場合に適した設定です。フラッシュがプリ発光する場合にも同調して発光します。

発光強度設定

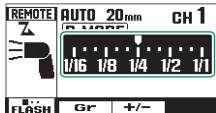
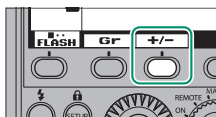
スレープモードで発光強度を設定する方法は、次のとおりです。

- 1 ページボタンを押して、ファンクションページ表示を **FLASH** にします。

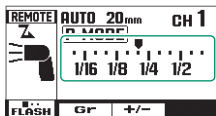
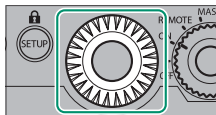


- 2 **+/-**が表示されているファンクションボタンを押します。

発光強度の表示が反転します。



- 3 コマンドダイヤルを回して値を選び、OKボタンを押して決定します。



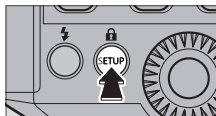
6 フラッシュのセットアップ

この章では、フラッシュのセットアップメニューについて説明しています。

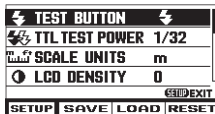
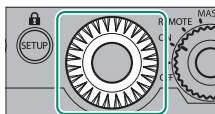
セットアップメニュー

フラッシュの基本的な設定や表示などの設定を変更できます。ON動作モード、REMOTE動作モード、MASTER動作モードのすべてのモードで設定できます。

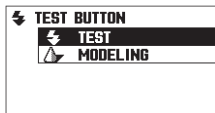
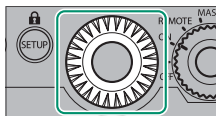
- 1 SETUPボタンを押します。



- 2 コマンドダイヤルで設定したい項目を選び、OKボタンを押します。



- 3 コマンドダイヤルで設定値などを選び、OKボタンを押します。





- 4 SETUPボタンを押して、設定を完了します。

*は工場出荷時設定です。



TEST BUTTON

テストボタンを押したときに、テスト発光するかモデリング発光するかを設定します (25)。

設定	説明
 TEST*	テスト発光します。
 MODELING	モデリング発光します。

TTL TEST POWER

TTL 撮影時、テスト発光を行うときの発光量を設定します。

設定	説明
 1/1	1/1 の光量 (フル発光) で発光します。
1/32*	1/32 の光量で発光します。
 1/128	1/128 の光量で発光します。

SCALE UNITS

液晶パネルの距離表示を、メートルまたはフィートから選んで設定します。

設定	説明
m METER*	メートル (m) で表示します。
ft FEET	フィート (ft) で表示します。



LCD DENSITY

液晶パネル表示の濃さを -2 ~ +2 の 5 段階で設定します。工場出荷時設定は「0」です。

* は工場出荷時設定です。



LCD ILLUMINATION

ボタンやダイヤルを操作したとき、液晶パネルの照明が点灯するかどうかを設定します。

設定	説明
 ON	常に点灯します。
15 15 SEC.*	最後の操作から 15 秒間点灯します。
 OFF	点灯しません。



BEEP

電子音を鳴らすかどうかを設定できます。**ON**に設定すると、フラッシュの充電完了時、温度上昇警告時、リモートフラッシュの光量不足時などに電子音が鳴ります。

設定	説明
 ON*	電子音を鳴らします。
 OFF	電子音を鳴らしません。

REMOTE READY INDICATOR




REMOTE 動作モード時、充電が完了したときにレディーランプのみ点灯させるか、レディーランプと LED ビデオライトを点灯させるかを設定します。

設定	説明
 REAR+FRONT*	レディーランプと LED ビデオライトを点灯させます。
 REAR	レディーランプのみ点灯させます。

* は工場出荷時設定です。

SENSOR FORMAT

液晶パネルに表示する焦点距離について、基準となるカメラのセンサーサイズを設定します。



設定	説明
 35mm	35mm フォーマットのセンサーサイズを基準にします。
 AUTO*	フラッシュを取り付けたカメラのセンサーサイズを自動で検出して基準にします。
 CUSTOM	基準とするセンサーサイズを手動で設定します。

CUSTOM SENSOR FORMAT

SENSOR FORMAT を **CUSTOM** に設定した場合に、焦点距離を換算表示する際の、35mm フォーマットを基準にした倍率を設定します。工場出荷時設定は「1.00」です。

STANDBY

フラッシュを単灯で使用するとき、フラッシュがスタンバイ状態 (📖 25) になるまでの時間を設定します。

設定	説明
2 2 min.	2 分間に設定します。
 SYSTEM AUTO*	カメラがスタンバイ状態になると、連動してスタンバイ状態になります。カメラに接続していない場合は、2 分経過するとスタンバイ状態になります。
 DISABLED	フラッシュがスタンバイ状態になりません。

*は工場出荷時設定です。

REMOTE STANDBY

リモートフラッシュがスタンバイ状態 (25) になるまでの時間を設定します。

設定	説明
60 60 min.*	60 分間に設定します。
10 10 min.	10 分間に設定します。
⊘ DISABLED	リモートフラッシュがスタンバイ状態になりません。

AUTO POWER OFF

リモートフラッシュがオートパワーオフ状態 (72) になるまでの時間を設定します。

設定	説明
⏻ 8 8h.*	8 時間に設定します。
⏻ 1 1h.	1 時間に設定します。

フラッシュ設定の保存 / 読み出し / リセット

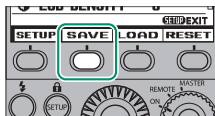
この章では、フラッシュ設定の保存、読み出し、リセットの操作方法について説明します。

フラッシュ設定の保存

ON、REMOTE、MASTER のすべての動作モードにおける現在の設定と、セットアップメニューの設定を保存できます。

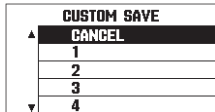
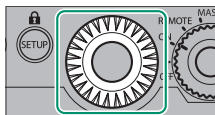
1 SETUPボタンを押して、セットアップメニュー画面を表示します。

2 セットアップメニュー画面で、**SAVE**が表示されているファンクションボタンを押します。



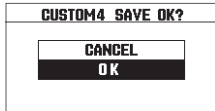
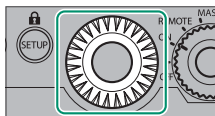
3 コマンドダイヤルを回して設定を保存したい場所を1～10から選び、OKボタンを押します。


CANCEL を選んで **OK** ボタンを押すと、セットアップメニュー画面に戻ります。



4 確認画面でコマンドダイヤルを回して **OK** を選び、**OK** ボタンを押して決定します。

実行中の画面が表示された後、現在の設定を保存してセットアップメニュー画面に戻ります。



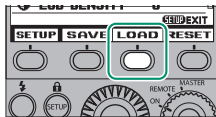
 保存した設定内容を変更したい場合は、それぞれの設定を変更した上で、再度手順1～4の操作を行ってください。手順3の操作で同じ保存場所を選ぶと、変更した設定が上書き保存されます。

保存したフラッシュ設定の読み出し

保存した ON、REMOTE、MASTER のすべての動作モードにおける設定と、セットアップメニューの設定を読み出すことができます。

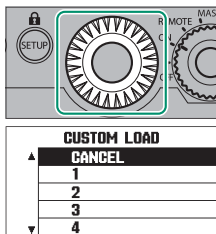
1 **SETUP**ボタンを押して、セットアップメニュー画面を表示します。

2 セットアップメニュー画面で、**LOAD**が表示されているファンクションボタンを押します。



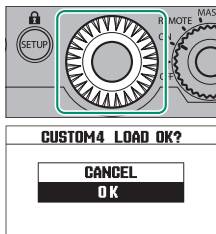
3 コマンドダイヤルを回して読み出した設定を1~10から選び、**OK**ボタンを押します。

CANCELを選んで**OK**ボタンを押すと、セットアップメニュー画面に戻ります。



4 確認画面でコマンドダイヤルを回して**OK**を選び、**OK**ボタンを押して決定します。

実行中の画面が表示された後、設定を読み出してセットアップメニュー画面に戻ります。

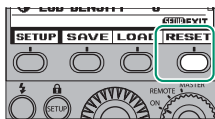


フラッシュ設定のリセット

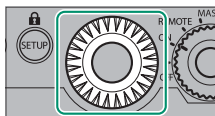
ON、REMOTE、MASTER のすべての動作モードにおける現在の設定と、セットアップメニューの設定を、工場出荷時の設定に戻します。

1 **SETUP**ボタンを押して、セットアップメニュー画面を表示します。

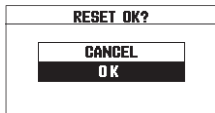
2 セットアップメニュー画面で、**RESET**が表示されているファンクションボタンを押します。




3 確認画面でコマンドダイヤルを回して**OK**を選び、**OK**ボタンを押して決定します。



- 実行中の画面が表示された後、設定をリセットしてセットアップメニュー画面に戻ります。
- **CANCEL** を選んで **OK** ボタンを押すと、設定をリセットせずにセットアップメニュー画面に戻ります。



 CUSTUM1 ~ 10 に保存した設定 (96) はリセットされないため、再度読み出すことが可能です。

資料 8

この章では、動作がおかしいときの対処方法や、主な仕様などについて説明しています。

トラブルシューティング / FAQ

フラッシュの動作がおかしいときは、まず次の表の内容をご確認ください。処置を行っても改善されない場合は、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

電源

症状	処置	ページ	
電源について	電源がオンになりません。	電池が正しい方向で装填されているか確認してください。正しい方向で装填されていない場合は、入れ直してください。 新品または満充電の電池と交換してください。	20
	使用中に電源がオフになってしまいました。	フラッシュがスタンバイ状態になっている可能性があります。テストボタンを押してください。 電池の残量を確認してください。消耗している場合は、新品または満充電の電池と交換してください。	25 20

単灯撮影時





症状	処置	ページ	
フラッシュについて	本製品に対応しているカメラをご使用ください。	108	
	レディーランプが点滅または点灯してからご使用ください。	25	
	フラッシュが発光しません。	ホットシューに正しく取り付け、シューロックレバーをロックの位置にスライドしてからご使用ください。 フラッシュのホットシュー台座と、カメラのホットシューの端子が汚れていないか確認してください。汚れている場合は清掃してください。	22
	カメラのフラッシュモードが発光禁止設定になっていると、フラッシュが発光しません。	カメラの使用説明書をご覧ください。	

	症状	処置	ページ
フラッシュが 発光しません。		カメラのフラッシュモードがオート設定になっていると、フラッシュを発光するかどうかをカメラが自動で判断します。	カメラの使用説明書をご覧ください。
		カメラの設定が、フラッシュを使用できない設定になっていないか確認してください。	
撮影した画像が 明るくなります。		カメラの露出が適正になるように設定してください。	—
		カメラの露出設定が、カメラの調整可能範囲を超えている可能性があります。	
		フラッシュの発光モードをマニュアルモードに設定している場合、発光強度の設定値を下げてください。	39
		フラッシュの発光モードを TTL モードに設定して調光補正している場合、補正値を下げてください。 フラッシュの発光モードを TTL モードに設定している場合、被写体の色や反射率によっては明るく撮影される場合があります。必要に応じて、調光補正値をマイナス側に設定してください。	36
撮影した画像が 暗くなります。		カメラの露出が適正になるように設定してください。	—
		カメラの露出設定が、カメラの調整可能範囲を超えている可能性があります。	
		フラッシュの発光モードをマニュアルモードに設定している場合、発光強度の設定値を上げてください。	39

症状		処置	ページ
露出について	撮影した画像が暗くなります。	フラッシュの発光モードを TTL モードに設定して調光補正している場合、補正値を上げてください。	36
		フラッシュの発光モードを TTL モードに設定している場合、被写体の色や反射率によっては暗く撮影される場合があります。必要に応じて、調光補正値をプラス側に設定してください。	
	フラッシュ撮影可能距離内で撮影するか、ISO 感度を上げてください。	カメラの使用説明書をご覧ください。	
	シャッタースピードがカメラのフラッシュ同調速度より高速の場合は、フラッシュを発光しても暗くなることがあります。シャッタースピードをカメラのフラッシュ同調速度以下に設定してください。		
撮影した画像の一部が暗くなります。	シャッタースピードがカメラのフラッシュ同調速度より高速の場合は、カメラで同調モードを FP オート設定にしてください。	—	
	フラッシュの照射範囲内に、レンズフードやレンズの鏡胴などが重なっていないか確認してください。		
	照射角の設定値を上げてください。		46
	近くの被写体をフラッシュ撮影する場合は、発光部を下方 10° の位置に動かしてください。		30
発光時の音について	フラッシュの発光時に大きな音がします。	発光部の左側が金属に接触しないようにしてください。接触した状態で発光させると大きな音がする場合がありますが、故障ではありません。	55

光通信ワイヤレス多灯フラッシュ撮影時

症状		処置	ページ
カメラの設定メニューについて	カメラにフラッシュの設定メニューが表示されません。	本製品に対応しているカメラをご使用ください。	108
		マスターフラッシュは、ホットシューに正しく取り付けて、シューロックレバーをロックの位置にスライドしてからご使用ください。	22
		フラッシュのホットシュー台座と、カメラのホットシューの端子が汚れていないか確認してください。汚れている場合は清掃してください。	
		マスターフラッシュの電源レバーが MASTER の位置に合っているか確認してください。	24
フラッシュの設定について	フラッシュの液晶パネルに  が表示されて、フラッシュ設定ができません。	本製品を取り付けたカメラが MASTER 機能に対応していません。対応しているカメラをご使用ください。	—
リモートフラッシュについて	リモートフラッシュが発光しません。	マスターフラッシュとリモートフラッシュを通信可能距離内に配置してください。	55
		リモートフラッシュの受光部がマスターフラッシュに向くように配置してください。	56
		電池の残量を確認してください。消耗している場合は、新品または満充電の電池と交換してください。	20
		リモートフラッシュの電源レバーが REMOTE の位置に合っているか確認してください。	24
		リモートフラッシュのグループ設定が正しく設定されているか確認してください。	57

症状	処置	ページ
リモートフラッシュが 発光しません。	リモートフラッシュがスタンバイ状態になっていないか確認してください。スタンバイ状態になっている場合は、マスターフラッシュのテストボタンを押してください。	25、72
	リモートフラッシュとマスターフラッシュの通信チャンネルが同じチャンネルに設定されているか確認してください。	59、64
マスターフラッシュが 発光しません。	MASTER 発光設定 が  (A グループ)、  (B グループ)、  (C グループ) のいずれかに設定されているか確認してください。	62
マスターフラッシュが 発光します。	MASTER 発光設定 が  (非発光) に設定されている場合も、リモートフラッシュの制御用に光通信が行われるため、マスターフラッシュがわずかに発光します。	
撮影した画像が 明るくなります。	カメラの露出が適正になるように設定してください。	—
	カメラの露出設定が、カメラの調整可能範囲を超えている可能性があります。	
	フラッシュの発光モードをマニュアルモードに設定している場合、発光強度の設定値を下げてください。	78
	フラッシュの発光モードを TTL モードに設定して調光補正している場合、補正値を下げてください。	70
フラッシュの発光モードを TTL モードに設定している場合、被写体の色や反射率によっては明るく撮影される場合があります。必要に応じて、調光補正値をマイナス側に設定してください。		



	症状	処置	ページ
露出の不足	撮影した画像が明るくなります。	フラッシュの発光モードを TTL モードに設定している場合、十分に光量を絞れない場合があります。その場合は、被写体との距離を離す、ISO 感度を下げる、絞り値を上げるなどの調整を行ってください。	カメラの使用説明書をご覧ください。
露出の不足	撮影した画像が暗くなります。	カメラの露出が適正になるように設定してください。	—
		カメラの露出設定が、カメラの調整可能範囲を超えている可能性があります。	—
		フラッシュの発光モードをマニュアルモードに設定している場合、発光強度の設定値を上げてください。	78
		フラッシュの発光モードを TTL モードに設定して調光補正している場合、補正値を上げてください。	70
		フラッシュの発光モードを TTL モードに設定している場合、被写体の色や反射率によっては暗く撮影される場合があります。必要に応じて、調光補正値をプラス側に設定してください。	
		フラッシュ撮影可能距離内で撮影するか、ISO 感度を上げてください。 シャッタースピードがカメラのフラッシュ同調速度より高速の場合は、フラッシュを発光しても暗くなることがあります。シャッタースピードをカメラのフラッシュ同調速度以下に設定してください。	カメラの使用説明書をご覧ください。


バッテリーパックご使用時

症状		処置	ページ
バッテリーパックについて	フラッシュが発光しません。	バッテリーパックのレディーランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合、電池の向きが正しいか、新品の電池が使用されているか、電池がしっかりセットされているかを確認してください。	—
		フラッシュ本体の電池が入っているか、電池の残量が十分にあるか、電池がしっかりセットされているかを確認してください。	20

温度上昇時の動作


フラッシュ内部の温度が上昇すると、液晶パネルに次の警告表示が表示されます。

表示	内容
	本製品の温度が上がっています。連続してお使いになると、発光できなくなる場合があります。しばらく休止させるか、発光間隔を空けてお使いください。
	本製品の温度が高いため発光できません。警告が消えるまで休止させてください。すぐに連続して発光させると再度警告が表示され発光できなくなりますので、十分に休止させることをおすすめします。

 連続発光させると、温度が上昇しやすくなります。

電池消費時の動作

電池が消耗すると、液晶パネルに次の警告表示が表示されます。

表示	内容
	電池が消耗しています。新品または満充電の電池に交換してください。

主な仕様

システム	
形式	
形式	ホットシュークリップオンタイプ外部フラッシュ
型番	EF-X500
対応カメラ ^{*1}	FUJIFILM X-T1、X-T2、X-Pro2 その他ホットシューを搭載した X シリーズカメラ、 FinePixHS20EXR、HS30EXR、HS50EXR でも一部機能が ご利用いただけます。
発光部	
ガイドナンバー	最大ガイドナンバー約 50 (ISO 100・m、照射角 105mm 設定時) ^{*2}
照射角	24mm-105mm ^{*2} 、オートズーム機能、 内蔵ワイドパネル使用時 約 20mm ^{*2}
バウンス	上:90°、下:10°、左:135°、右:180°
色温度	約 5600K (フル発光時)
FP (ハイスピード シンクロ) 発光	対応 (対応カメラご使用時のみ)
露出制御	
露出制御・発光方式	TTL 発光、マニュアル発光、マルチ発光 (マニュアル)
調光補正	± 5 段 ^{*3} 、 $\frac{1}{3}$ 段ステップ
マニュアル発光	$\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{612}$ 発光 ^{*3} 、 $\frac{1}{3}$ 段ステップ ※ FP 発光では少発光側設定が制限されます。
マルチ発光	$\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{612}$ 発光 ^{*3} 、 $\frac{1}{3}$ 段ステップ
充電部	
発光間隔 (フル発光・満電池)	約 2.5 秒 (ニッケル水素電池)
発光回数 (フル発光・満電池)	約 170 回 (ニッケル水素電池)


^{*1} X-T1、X-Pro2 はファームウェアの更新が必要です。また、最新の対応状況は、
<http://fujifilm.jp/sd/> をご覧ください。

^{*2} 35mm フォーマット換算

^{*3} 撮影条件によっては調整可能範囲を超え、設定値が反映されない場合があります。

システム	
光通信ワイヤレス機能	
通信方式	光パルス方式
動作モード	マスター（TTL、マニュアル、マルチ発光、OFF）、 リモート（TTL、マニュアル、マルチ発光、OFF）
通信チャンネル	1～4
リモートグループ	最大3グループ（A、B、C）
その他機能	
発光連動スレーブ	対応（P-MODE、N-MODE）
LED ビデオライト	対応（内蔵）
LED AF 補助光 / キャッチライト	対応（内蔵）
リフレクターパネル	対応（内蔵）
ディフューザー	対応（同梱）

電源部、その他	
電源	
本体電源	単3電池4本 （アルカリ電池、ニッケル水素電池）
外部電源	別売オプション EF-BP1 対応
使用温度範囲	摂氏 -10℃～+40℃
寸法	約 高さ 124.0 × 幅 67.2 × 奥行 107.3 (mm)
質量	約 380g（電池別）

 外観及び性能を改良のため、お断りなく一部変更する場合があります。

ガイドナンバー (ISO100・m)

閃光発光

発光量	照射角 (単位: mm) ※ 35mm フォーマット / APS-C 換算									
	ワイド パネル	24/ 16	28/ 18	35/ 23	50/ 33	70/ 46	80/ 53	85/ 56	90/ 59	105/ 69
1/1	14.9	25.0	27.1	33.1	42.8	46.7	48.0	48.8	49.5	50.5
1/2	10.6	17.7	19.1	23.4	30.3	33.0	33.9	34.5	35.0	35.7
1/4	7.5	12.5	13.5	16.5	21.4	23.4	24.0	24.4	24.8	25.3
1/8	5.3	8.8	9.6	11.7	15.1	16.5	17.0	17.3	17.5	17.9
1/16	3.7	6.2	6.8	8.3	10.7	11.7	12.0	12.2	12.4	12.6
1/32	2.6	4.4	4.8	5.9	7.6	8.3	8.5	8.6	8.8	8.9
1/64	1.9	3.1	3.4	4.1	5.4	5.8	6.0	6.1	6.2	6.3
1/128	1.3	2.2	2.4	2.9	3.8	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5
1/256	0.9	1.6	1.7	2.1	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
1/512	0.7	1.1	1.2	1.5	1.9	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2

FP 発光


発光量	照射角 (単位: mm) ※ 35mm フォーマット / APS-C 換算									
	ワイド パネル	24/ 16	28/ 18	35/ 23	50/ 33	70/ 46	80/ 53	85/ 56	90/ 59	105/ 69
1/1	4.9	8.2	8.9	10.9	14.1	15.4	15.8	16.1	16.3	16.7
1/2	3.5	5.8	6.3	7.7	10.0	10.9	11.2	11.4	11.5	11.8
1/4	2.5	4.1	4.5	5.5	7.1	7.7	7.9	8.1	8.2	8.3
1/8	1.7	2.9	3.2	3.9	5.0	5.4	5.6	5.7	5.8	5.9
1/16	1.2	2.1	2.2	2.7	3.5	3.9	4.0	4.0	4.1	4.2
1/32	0.9	1.5	1.6	1.9	2.5	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9


※ FP 発光時のガイドナンバーは X-Pro2 を使用、シャッタースピード 1/500 の時の値です。シャッタースピードが 1 段速くなると、ガイドナンバーは 1 段小さくなります。




索引



[アイコン]




TTL (TTL ロック表示)、11, 14


 (ビープ音有効表示)、11


 (温度上昇警告表示)、107


 /  /  (配光特性表示)、11, 45


 /  (バウンス状態表示)、11, 30


 /  /  (同調モード表示)、11


 (LED ビデオライト発光状態表示)、11, 47

 (LED ビデオライト発光強度表示)、11, 48



 (LED AF 補助光設定表示 / LED キャッチライト設定表示)、11, 49

 (通信方向表示 (リモート))、13


 (通信方向表示 (マスター))、14

 (電池消耗警告表示)、107

MODE (発光モード)、51, 65


 /  (調光補正 / 発光強度)、51, 60, 65


TIME·Hz (発光回数 / 発光周波数)、51, 65

 (配光特性)、45, 52, 61, 66

ZOOM (照射角)、46, 52, 61, 66

ON/OFF (ビデオライト ON/OFF)、47, 52, 61, 67

 (ビデオライト明るさ)、48, 52, 61, 67

AF  (AF 補助光 / LED キャッチライト設定)、49, 52, 67

Gr (グループ)、60

CH (光通信チャンネル)、61, 66

RATIO (光量比)、65

 **MASTER** (MASTER 発光設定)、66

 TEST BUTTON、91

 TTL TEST POWER、91

 SCALE UNITS、91

 LCD DENSITY、91

 LCD ILLUMINATION、92

 BEEP、92

 REMOTE READY INDICATOR、92

 SENSOR FORMAT、93

 CUSTOM SENSOR FORMAT、93

Zz STANDBY、93

 REMOTE STANDBY、94

 AUTO POWER OFF、94

[A ~ Z]

AF 補助光、49

TTL、27, 36, 69

TTL% (光量比設定)、73

LED キャッチライト、49

LED ビデオライト、47, 48, 49, 92

MASTER 発光設定、62

Multi (マルチ)、40, 80

M (マニュアル)、38, 77

N-MODE、87

P-MODE、87

[あ]

アフターサービス (修理)、113

オートパワーオフ、72, 94

温度上昇警告、107

液晶パネル照明、26

液晶パネル表示、11

【か】

ガイドナンバー、110
キャッチライト、49
グループ設定、57,62
光量比、73

【さ】

最大連続発光回数、43
撮影距離、36,39
シャッタースピード、42
充電、25
修理、113,115
照射角、31,45,46
スタンバイ、25,72
スレープモード、86
セットアップメニュー、90

【た】

調光補正、36,58,70,75
通信可能距離、55
ディフューザー、33
テスト発光、25,91
電源、24
電子音、92
電池、20
電池消耗警告、107
同梱品、2

【な】

ノーマルスレープ発光、87

【は】

配光特性、45
配置例、55
バウンス、30
発光回数、21
発光回数（マルチ発光）、41,82
発光間隔、21
発光強度、39,41,78,81,88
発光周波数、41,82

発光モード、27,38,40,69,
73,77,80
光通信チャンネル、59,64
光通信ワイヤレス多灯撮影、54,69
ビデオライト ON/OFF、47
ビデオライト明るさ、48
ファンクションページ表示、17,51,
60,65
ファンクションボタン、17
ファンクションボタン機能表示、17,
51,60,65
フラッシュ設定の保存、96
フラッシュ設定の読み出し、97
フラッシュ設定のリセット、98
フラッシュ機能設定（カメラからの
設定）、44,68
プリ発光キャンセルスレープ発光、87
フルマニュアル多灯システム
スレープ動作モード、86
ページボタン、17

【ま】

マスター設定、62,65
マニュアル発光、38,77
マルチ発光、40,80
モデリング発光、25,72,91

【ら】

リセット、98
リフレクターパネル、32
リモート設定、56,60
レディーランプ、25,92

【わ】

ワイドパネル、31

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または修理サービスセンターにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪いときはまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePix サポートセンターへお問い合わせください。電話番号が巻末に記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フィルム修理サービスセンターまたは当社サービスステーションに修理をご依頼ください。富士フィルム修理サービスセンター、サービスステーションのご案内が巻末にあります。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 本書巻末にある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下・衝撃、砂・泥かぶり、冠水・浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後 7 年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。その場合、旧機種でご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応 OS が変更になることがあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でおお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePix サポートセンター等のお問合せ先、富士フィルム修理サービスセンターあるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

- 本製品に関するお問い合わせは… ※あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

富士フイルムFinePixサポートセンター

月曜日～金曜日 9:30～17:30 / 土曜日、日曜日、祝日 10:00～17:00 (年末年始を除く)

TEL 050-3786-1060 ご利用いただけない場合は 0228-30-2992

FAX 050-3786-2060 受付時間：24時間 (返信対応は電話の受付時間と同一です)

- 本製品の関連情報は… ※弊社ホームページ <http://fujifilm.jp/> の自己解決に役立つ「Q&A検索」もご利用ください。

■修理サービスQ&A

修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/repairservice/index.html>

■修理料金のご案内

当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を確認できます。

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/repairservice/estimate/index.html>

- 修理の受付は… ※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。また、あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■修理のご相談受付窓口 富士フイルム修理サービスセンター

月曜日～金曜日 9:30～17:30 / 土曜日 10:00～17:00 (年末年始を除く)

TEL 050-3786-1040

FAX 050-3786-2040 受付時間：24時間 (返信対応は電話の受付時間と同一です)

■修理品ご送付受付窓口 富士フイルム修理サービスセンター

〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1 / TEL : 050-3786-1040

▶お急ぎの場合は、全国どこからでも【FinePixクイックリペアサービス】

お預かりからお届け迄が最短3日の宅配修理サービス

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/repairservice/quick/index.html>

▶お近くのサービスステーション【サービスステーション一覧】

<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/repairservice/servicestation/index.html>

サービスステーションにつきましては、弊社ホームページ <http://fujifilm.jp/> または上記の<修理ご相談受付窓口>にてご確認・お問い合わせください。

- 本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター TEL 050-3786-1711

(月曜日～金曜日 9:00～17:40 / 土曜日 10:00～17:00 ※日・祝日・年末年始を除く)

※各窓口の受付時間、サービス内容は予告なく変更する場合があります。最新の情報は弊社ホームページでご確認ください。